



Title	エウエン語ブистраヤ方言の概説とテキスト
Author(s)	風間, 伸次郎
Citation	北方言語研究, 5, 83-128
Issue Date	2015-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58331
Type	departmental bulletin paper
File Information	07Kazama.pdf



エウエン語ブイストラヤ方言の概説とテキスト

風 間 伸 次 郎
(東京外国語大学)

0. はじめに

本稿は下記の3つの部分よりなる: ①調査の概況 (1 節)、②エウエン語ブイストラヤ方言の概説 (2 節)、③同方言のテキスト (3 節)、である。なお先行研究 (Novikova (1960, 1968, 1980)) にならい、今回調査したカムチャッカのエウエン語の方言を「ブイストラヤ (Bystraja) 方言」と呼ぶことにする。

1. 調査地の概況

ここでは今回の調査の旅程やアクセス、現地の状況や、エウエン語の使用ならびに教育の状況について述べる。

カムチャッカのペトロパヴロフスク・カムチャツキーへは、夏期に限り日本からの直行便が飛んでいる。飛行時間は3時間ほどである。エウエンの住む村まではバスが毎日運航しており、アナウガイ村 (anavgaj) までは9時間、エッソ (Esso) 村までは9時間半ほどかかる。ほぼ中間地点で、途中昼食を取るミーリコヴァ村 (Mil'kova) までの大部分は舗装道路だが、その先は舗装されていない。エッソまでの距離は600km弱で、アナウガイ-エッソ間は20km強である (地図1参照)。今回の筆者の調査は2014年8/10-8/26で、後半はハバロフスクに飛びナーナイ語を調査したので、エウエン語の調査は8/12-14にアナウガイ村で、8/15-19にエッソ村で行ったものである。

アナウガイの人口は650人、約400人がエウエン人であるという。エッソの人口は約2,000人で、エウエンは半分以下で800人ぐらいではないかという。コリャークやイテリメンはほとんどいないという。個人差はあると思われるが、両村とも2014年現在、40歳台以上の年齢層はまだエウエン語を保持しているが、若年層はロシア語しかできない者がほとんどである。話者たちもおおよそそのように捉えている。エッソでは週に一回エウエン語の授業が行われているという情報を得た (アナウガイでも行われているが、十分な情報を得られなかった)。エッソには11年生までの学校が1つあり、他に芸術音楽学校がある。カムチャッカは火山が多く、両村共に温泉がある。そのためロシア国内をはじめとする他地域からの観光客も訪れる場所となっている。近くの水力発電所の恩恵もあってインフラが進んでおり、村はほぼ全戸に集中暖房や上下水道を備えている。

両村ともに、その村とつながりのあるトナカイキャンプを有している。現在全部で6つのトナカイキャンプがあるという (うちエッソに関連があるのが4つ、アナウガイのものは2つ)。アナウガイの2つのブリガード所有のトナカイは現在ともに約1,000頭ずつであるという。昔は2,000~3,000、もしくはそれ以上のトナカイを有していたという。トナカイキャンプは移動しているということもあり、その正確な位置については十分な情報を得られなかった。1つはアナウガイの北で、おそらく村から最も近くにあり、四駆の車でなら行ける道もあるという。その他はエッソの西及び南西で活動しているようであり、キャン

プへは馬で移動するしかない。その距離も「馬で1日半、馬で2日」のように表現する。肉の売買などの目的で、キャンプから村への恒常的な人の行き来がある。特に11月はトナカイを殺して肉にするので、村の方に下りてくるという。キャンプではトナカイ飼育の本来的な生業や文化と共に、エウエン語がより良く保存されている可能性が考えられるが、村の方に聞く限りでは明らかでない。両村では数は少なくなったとはいうものの、キャンプへの移動その他の目的のために、馬を現在も飼育している。

現在両村に住んでいるエウエンたちは、もともと半島の西側のオホーツク海に流れ込むいくつかの川沿いに住んでいたという（地図2参照）。3つの村があり、北から順に、マラシェチュナヤ（Moroshechnaja）川支流のウシュク（Ushkh）（もしくはケクク（Kekuk））川沿いのケクク（Kekuk）村、ソポチュナヤ（Sopochchnaja）川支流のラッソーシナ（Rassoshina）川沿いのラオチャン（Lauchan）村、イチャ（Icha）川沿いのトゥワヤン（Tvajan）村である。トゥワヤン村は1964年に閉鎖されたそうであり、おそらく他の村も同時期に閉鎖され、エウエンたちはブイストラヤ（Bystraja）村へ集住化を余儀なくされた。ブイストラヤ村はブイストラヤ（Bystraja）川がカムチャッカ（Kamchatka）川に合流する地点よりややブイストラヤ川を遡った地点にあったという。しかしブイストラヤ村も1975年にやはり閉鎖され、住民はエッソもしくはアナウガイに移り住んだものである。筆者が接触した範囲内では、エッソのエウエンの多くはラオチャン村出身であった。トゥワヤン村とラオチャン村の言葉の間には方言差はないという。アナウガイのエウエンはほとんどウヤガン（Ujagan）とドルガン（Dolgan）という2つの氏族に属しており、同じ氏族の間では結婚しないのだという。現在のアナウガイのエウエンの姓には、Cherkanovy, Adukanovy, Banakanovy, Amganovy, Ichanga, Kolymskij があるという。このうち Banakanovy は「怠け者」の意で、Ichanga は漢民族の起源を持つという。

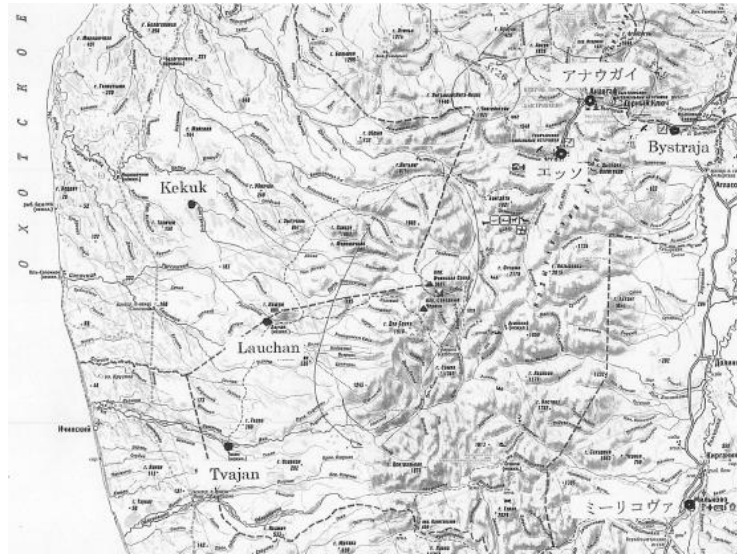
この地域のエウエンの民族学的情報に関しては、主に3節のテキストを参照されたい。なおアナウガイ村からアナウガイ川に沿って1.5kmほど行った地点に、エウエン語で Munəjək と呼ばれている場所（etno-kul'turnyj tsentr 民族文化センター）がある。ここは聖なる地とされており、お祭りなどがこで行われる他、野外博物館のようになっており、トナカイキャンプのテントや干し台などが展示されている（なおエッソ村にはより一般的な形式の博物館がある）。6/21-22には新年の祭り、2月下旬から3月上旬には「トナカイ遊牧の日」という祭りがあるという。新年の祭りは別名 nurgəŋk 「踊りの祭り」と言われているという。3月末には犬橇の競走の祭りがあり、これはその頃学校が休みである子供たちによって競われる。2-8歳、8-12歳、12-14歳の3つのグループに分かれて行われるという。4月のはじめには、トナカイの出産が始まるが、これについてのお祭りもあるという。

これまでにドイツのマックス・プランク研究所から B. Pakendorf と K. Gernet（さらにフランス人の民族学者）が1996年より多年にわたり現地調査に訪れてきているそうであり（ただしその研究プログラムは終了し、2012年に来たのが最後であるという）、Aralova et al. (2013) というカラーイラスト入りの小冊子を現地に還元している。そこには4つのブイストラヤ方言の民話が1行ずつのロシア語対訳で記されている。

なお今回の調査行および現地の状況に関しては、風間（2015 近刊）も参照されたい。



地図 1



地図 2

2. エウエン語ビストラヤ方言の特徴

エッソ村の Kornileva, Margarita L'vovna 氏（1960 年 Lauchan 村生まれ）より、ロシア語を媒介言語とし、200 強の例文と AA 研の基礎語彙調査票の AB レベルの語彙（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（1966, 1967））を調査した（ただし例文、語彙ともに氏が思い出せなかったものもある程度存在する。例文の方の整理もまだ完全には済んでいない状況である）。主にこれらの例文・語彙を資料とし、オラ方言を基礎としたエウエン語文語（以下「文語」）や筆者が以前に調査したマガダンやギジガなどの方言との対照を行った。必要に応じて、本稿 3 節のテキスト、および Aralova et al. (2013) からの情報も加えた（その場合は明記した、[x-yyy] は本稿テキスト中の出現箇所を示す）。以下ではその結果明らかになったビストラヤ方言のいくつかの特徴について、①音声・音韻、②語彙・意味、③文法、の 3 つの面から整理することとする。上記のような資料に基づく分析であるので、以下に見る諸特徴は Kornileva 氏のパロールの次元での問題、つまり個人的な特徴である可能性も否定できない。その点に関しては今後さらなる確認等を要することをことわっておく。

なお Novikova (1968) によれば、エウエン語は大きく 3 つの方言（東・中央・西）、13 の下位方言に分かれる。ビストラヤ方言は東方言の 6 つある下位方言（他はアナドイル、コリマ・オモロン、ペンジン、オラ、オホーツク）の 1 つである。したがって東方言に共通する次のような諸特徴を持っている：①広母音が弱化した場合、[a] のような発音となる、②語中・語末の s を保持している、③ 1 人称複数代名詞に包括と除外の対立がある、④ 1, 2 人称代名詞に属格形がある、⑤修飾語の一致がある。これらの点は筆者も確認できた。

なおエウエン語の文語はオラ方言を基礎としている。以下で「文語」という場合には、書き言葉ではなく、このオラ方言を基礎とした話しことばを指すものとする。

2.1. 音声・音韻の特徴ならびに文語等との音対応

以下は基本的には音韻表記であり、必要に応じて音声表記を示している（区別が必要な場合には / /, [] の記号を用いた）。母音に関しては対応が不規則であり、この方言の母音体系の解明にはなお研究が必要である。したがって母音に関する音韻表記は暫定的なものである点に留意されたい。下記で (L) は文語形を、(B) はブイストラヤ方言の形を示す。文語形は Novikova (1980) を参考にした（表記は若干変更した）。筆者は文語の基になったオラ方言の音形について、マガダン、オラ、ギジガなどで実際に観察した経験があるので、下記の観察はそれとの比較に基づいている。なお基礎語彙 A については Kazama (2003) 付属の CD で文語の実際の発音を聞くことが可能である。以下では、①子音の特徴、②母音の特徴、③音節構造の特徴、の順に見ていく。

2.1.1. 子音

2.1.1.1. 語頭の /x/ [h] の消失

エウエン語にはもともと語中・語末に /x/ [h] は存在せず、語頭にのみ/x/は観察される。中には他のツングースでの/s/が変化したものも多い (cf. エウエン xii || ナーナイ sii)。ブイストラヤ方言ではこの語頭の/x/が消失している。したがって音素/x/そのものがもはや存在しない。3節のテキストで検索しても、/x/を持つ語は全く見いだされない。こうした対応を示す語例は下記のようにきわめて大量に存在する：

(L) xujəl || (B) uŋəl 「血」, (L) xırkan || (B) ırkan 「ナイフ」, (L) xiisučin || (B) iisučin 「夕方」, (L) xarak || (B) aarako 「知り合い、仲間」¹, (L) xəwki || (B) əwki 「神」, (L) xərgə || (B) ərgə(-lə) 「下 (に)」, (L) xuklə- || (B) uklə(-sun)- 「眠る」, (L) xə- 「去る」 || (B) ur- 「行く」, (L) xoŋnu- || (B) oŋnu(-l)- 「動く」, (L) xaa- || (B) aa- 「知る」, (L) xək || (B) ukə 「暑い」, (L) xooja || (B) ooja 「多い」, (L) xaŋru 「暗い、(動物の毛色などについて) 黒い」 || (B) aŋnu 「黒い」, (L) xiltu || (B) ultu 「腸」, (L) xaanm || (B) aanm 「煙」, (L) xərgə 「家族の中の最年少者」 || (B) ərgə 「孫」, (L) xəəntu || (B) untə 「別の、異なる」, (L) xıra- || (B) ıra- 「呼吸する」, (L) xookun- 「狂喜する」 || (B) ookuŋ(-či)- 「喜ぶ」, (L) xənkidə- || (B) uŋkidə- 「蹴る」, (L) xoon- || (B) oon- 「割る」, (L) xəlu- || (B) ulu- 「追う」, (L) xaŋan- || (B) aŋaan- 「縫う」, (L) xupkut- || (B) upkut- 「教える」, (L) huunŋə- 「(吹雪などが) 吹く」 || (B) uunŋa- 「(風が) 吹く」

(以下テキストから) (L) xatlan || (B) atlan 「下に」 [1-007], (L) xurəl || (B) urəl 「子供 (pl.)」 [1-022], (L) xəŋul- || (B) əŋul- 「驚く」 [2-011], (L) xilgən- || (B) ilgən- 「震える」 [2-012], (L) xuč- || (B) uči- 「突く」 [2-033], (L) xəŋuŋ || (B) əŋuŋu 「恐ろしい」 [2-038], (L) xula- || (B) ulaa- 「残す」 [2-041], (L) xəsi- || (B) əsi- 「塗る」 [2-050], (L) xıat || (B) jaat 「小枝」 [2-056], (L) xıñ- || (B) ıñ- 「押し込む」 [2-051], (L) xəəjə || (B) əəjə 「頂上」 [3-005], (L) xıır- || (B) ır- 「怒る」 [3-020], (L) xəpkun- || (B) əpkun- 「捕まえる」 [3-029], (L) xıŋma || (B) ıŋma 「すばやい」 [3-041], (L) xılgit- || (B) ılgit- 「苦しめる」 [4-009], (L) xılıčaan || (B) ılıčaan 「キツネ」 [5-020], (L) xəətə || (B) əətə 「脂」 [6-020], (L) xaadukun || (B) aadun 「時々」 [6-020], (L) xərkə || (B) ərkə 「ズボン」 [6-037], (L) xootarun || (B) ootarun 「道」 [6-045], (L) xılku- || (B) ılka- 「(食器などを) 洗う」 [9-013], (L) xıkotič 「静かに」

¹ (B) aarako は 1 人称接辞のついた形 aarak-o である可能性がある。

|| (B) ɪkotič 「その場で」 [9-019], (L) xəikəčən 「稚魚」 || (B) əikəčəən 「イワナ」 [10-002], (L) xutəmtə || (B) utəmtə 「スイカズラ」 [11-004], (L) xeemkə- || (B) iimkə- 「咳をする」 [11-035], (L) xuju- || (B) uju- 「煮立つ」 [11-046], (L) xilu- || (B) ilu- 「(スープなどを) 飲む」 [11-051]

2 人称の代名詞（及びその諸斜格形）も次のようにやはりこの対応を示す。

(L) xii || (B) ii [2 人称単数代名詞], (L) xuu || (B) uu [2 人称複数代名詞]

次の 2 例では、/x/ の消失の代わり（さらには文語で子音の無い場所）に、鼻音が現れた。

理由は不明であるが、何らかの類推によるものと考えられる：

(L) xolaña || (B) ŋulaña 「赤い」, (L) omkət || (B) ŋomkat 「ひたい」

この /x/ の消失に関しては、話者の少なくとも何人かは認識している。コリヤーク語には x や h などの無声摩擦音が存在しないため、基層言語としてのコリヤーク語の影響によって生じた可能性も考えられる。

2.1.1.2. /s/ の š 音 [ʃ~ɕ] 化

/s/ は特に /i, ɪ/ および [ʌ] を前後に持つ語で口蓋化され、[ʃ~ɕ] のように発音される。この特徴に関しても、何人か他方言との違いを意識している話者がいる。ただし個人差があり、さらに同じ話者が同じ語を発話する際にも、必ずしも常に同じように口蓋化するわけではない：

(L) asɪ || (B) [aʃʌ] 「女」, (L) imsʌ || (B) [imʃʌ] 「脂」, (L) isʌm- || (B) [iʃʌm-] 「吐く」, (L) dawsʌ- || (B) [dawʃʌ-] 「振る」

2.1.1.3. ŋ > n

これについては次のような例が観察された：

(L) ŋaan || (B) naan 「再び」, (L) ŋək- || (B) nək- 「する」 [1-016], (L) -ŋun || (B) -nun [共格] [6-020],

なおこれらの語もしくは接辞はエウェンキー語やウデヘ語でも ŋ で始まるため、ŋ で始まる形の方が古いものと推定される。

2.1.1.4. /r/ の順行同化

おそらくは祖語の *-ls-, *-ns-, *-ŋs- に遡る語中の子音連続は、文語では -lr-, -nr-, -ŋr- となって現れている。これらの子音連続は発音しにくい面もあるらしく、筆者はギジガ村などでも後項の /r/ が順行同化している例を観察したことがある。ブистраヤ方言では後項の /r/ は規則的に全て前の子音に同化している：

(L) ulrʌ || (B) ullə 「肉」, (L) olrʌ || (B) ollʌ 「魚」, (L) dalrʌ || (B) dallʌ 「甘い」, (L) imənrrʌ || (B) imanna 「雪」, (L) xaŋrrʌ 「暗い、(動物の毛色などについて) 黒い」 || (B) aŋnʌ 「黒い」,

(L) monrokan || (B) monnokan 「ウサギ」 [5-013]

コリヤーク語には同一子音の連続はあるが、上記のような子音連続はないので、やはり間接的に影響を及ぼした可能性も考えられよう。

2.1.2. 母音

/ɪ/ については文語ほど前寄りでは発音されない。他方、/ʊ/ はそれほど奥寄りでは（舌

根を引いた感じでは) 発音されない。したがって /i/ と /ɪ/、/u/ と /ʊ/ の母音調和における対立が保たれているのかどうか定かでない。テキスト書き起こしの際には、コンサルタントは概ね両者を明確に区別していたが、文語の記述とは逆に判断した場合などもあった。本稿では今のところ上記の母音調和による対立は保たれているものとみて分析している。

2.1.2.1. /ɪ/

l, n の後の /ɪ/ は l, n を口蓋化させずに(「硬く」)発音されるので、この位置では **u** のように聞こえる：

(L) magʲilɪ || (B) /magʲilɪ/ [magʲilʊ] 「虫」, (L) atɪkannɪ || (B) /atɪkaan-nɪ/ [atɪkaannʊ] 「彼の妻」, (L) balɪkač || (B) /balɪkaač/ [balʊkaač] 「盲目の」

2.1.2.2. /ə/

文語の /ə/ に対しては、[u] で現れる場合と、[o] で現れる場合があった。後ろに /ə/ [ə~æə~ee] が後続する語で [o] になったものとする。複数のコンサルタントたちが /u/ であるとした語は、音素としても /u/ になったものとみなす：(L) xər- 「去る」 || (B) /ur-/ [ur-] 「行く」, (L) xək || (B) /ukə/ [ukə] 「暑い」, (L) (L) xəlɪ- || (B) /ulu-/ [ulu-] 「追う」, (L) ələ- || (B) /ələə-/ [olæə-] 「煮る」

2.1.2.3. /œ/

文語の /œ/ に対しては、[uu~u] で現れる場合と、[oo] で現れる場合がある。後ろに /ə/ [ə~æə] が後続する語では [oo] になる傾向が観察される：

(L) beədɪl || (B) /beədɪl(?) / [buudɪl] 「足」, (L) mœ || (B) /mœ(?) / [mœ ~ muu] 「水」, (L) tœəd || (B) /tuud-/ [tuud-] 「踏む」, (L) jœər || (B) /juur/ [juur] 「2」, (L) ŋœəltən || (B) /ŋultən/ [ŋultən] 「太陽」, (L) xœəntɪ || (B) /untə/ [untə] 「別の、異なる」；

(L) ŋœəčə || (B) /ŋœəčə/ [ŋoočə] 「花」, (L) kœələkə || (B) /kœələkə/ [koolækə] 「へそ」, (L) œəñə- || (B) /œəñə-/ [ooñə-] 「結ぶ」

2.1.2.4. /æ/

長母音音素 /æ/ は [ee] のように発音される：(L) nəə- || (B) /nəə-/ [nee-] 「置く」, (L) čəələwən || (B) /čəələji/ [čeeləji] 「全部」, (L) təədəkə || (B) /təədəkə/ [teedəkə] 「毛皮」, (L) kəəñəli || (B) /kəəñəli/ [keeñəli] 「悪い」

2.1.2.5. 母音の同化

文語の形に対して、母音が逆行同化もしくは順行同化（硬口蓋子音の後で）した形が対応している例も若干観察された：(L) əwi- || (B) iwi- 「遊ぶ」, (L) ikəri || (B) ikiri 「骨」, (L) jaasul || (B) jaasal 「目」, (L) amɲɪ || (B) amɲa 「口」, (L) čəɲɪč || (B) čɪɲəč 「釣竿」 [10-002], (L) ŋɪkən || (B) ŋakən 「首」

ただしこれらの場合は必ずしも同化した形の方が新しい形であるとは言えない。また、「首」の例に関しては、ɪ の折れとみるべきものだろう。

2.1.3. 音節

2.1.3.1. 開音節化

文語において1音節のCVCからなる語で次のような開音節化が観察された。ただし単語を単独で発話した状況であり観察されたものであり、数や格の接辞がつく場合にも開音節の語として振る舞うかどうかについてはさらに検討を要する。例えば(B) *ɲinʉ* 「犬」が複数接辞 *-l* をとる場合に開音節で現れている例がテキスト中に観察される ([6-053], [10-033])。したがって、歴史的に、文語の方で落ちた母音をこの方言が一部保持しているという可能性も考えられる：

(L) *tak* || (B) *taka* 「塩」, (L) *ɲɪm* || (B) *ɲinʉ* 「犬」, (L) *tiək* || (B) *tiikə* 「今」, (L) *ook* || (B) *ooka* 「いつ」, (L) *mian* || (B) *miana* 「10」, (L) *xək* || (B) *ukə* 「暑い」, (L) *ur* || (B) *uru* 「腹」, (L) *maɲ* || (B) *maɲʉ* 「硬い」, (L) *got* || (B) *gotʉ* 「苦い」, (L) *ɲam* || (B) *ɲama* 「暖かい」

この他に、語末の破裂音の脱落により開音節化している例も若干観察された：

(L) *oosukat* || (B) *oosuka* 「星」, (L) *timinaak* || (B) *timina* 「明日」

2.2. 語彙の特徴ならびに意味の変化

ここでは文語におけるある語が語源を異にする同じ意味の別の語でおきかえられているものをみる。ただし、媒介言語のロシア語によって各コンサルタントが思い浮かべる語が異なる可能性もあるので、文語にある語がブイストラヤ方言に存在しないとは限らない。

まず下記の6単語は、文語形が/x/で始まる語であることに注目したい。この方言では語頭の/x/は規則的に脱落したので、同音異義語が増えることを避けて語の取り替えが起こる可能性が考えられる（文語の形式だが、例えば *ɔtakan* 「魔女」, *aɲaar* 「トナカイに踏み均された雪」などの語があり、下記の *xotkan* 「袋」, *xaɲaar* 「穴」のような語の語頭の *x-* が脱落すれば、同音異義語もしくはそれに近いものになってしまう）：

(L) *xakurɪm* || (B) *aɲnu* 「黒い」, (L) *xotkan* || (B) *ələk* 「袋」 [4-005], (L) *xaɲaar* || (B) *čoolbako* 「穴」, (L) *xəəjə-* || (B) *kopulači-* 「踊る」, (L) *xaatur* || (B) *aɲnakaamkar* 「暗い」

次に以下の語群は、ブイストラヤ方言に対応する語形が類義語として文語に見いだされる場合である。これは文語かブイストラヤ方言のいずれか（もしくは両方）で意味の変化が起こり、その対応がずれたものであると考えることができる：

(L) *ostu* 「爪」 (*kokčɪm* 「ひづめ」) || (B) *kokčun* 「爪」, (L) *məɲən* 「お金」 (*tamun* 「支払、料金」) || (B) *tamanu* 「お金 (-ɲ-u は譲渡可能に1人称がついたものか)」, (L) *ɲən-* 「行く」 (*xər-* 「去る」) || (B) *ur-* 「行く」, (L) *obdu-* 「疲れる」 (*əsə-* 「病む、痛む」) || (B) *əsəə(-l)-* 「疲れる」, (L) *buulgis* 「体」 (*oj* 「服」) || (B) *oji* 「体 (なおこの語は「物」、「服」などいろいろな意に解釈される多義語であるという)」, (L) *dirum* 「太った」 (*bərgu* 「脂ののった」) || (B) *bergə* 「太った」, (L) *xum* 「糸」 (*tomkun* 「腱を撚ったもの、紡ぎ糸」) || (B) *tomkačaan* 「糸 (-čaan は指小辞)」

以下の語群における一連の意味変化は奇異なものに映る。すなわち、文語の「兄」、「姉」、「父」、「母」に当たる形がブイストラヤ方言では「父」、「母」、「祖父」、「祖母」の意で用いられているのである。テキストでもやはり同じ意味で上記の語形（「父」、「母」）が確認

できる ([2-035], [3-012], [6-002], [6-009], [7-005], [10-022]) ので間違いない。同様の意味変化 (「兄」 > 「父」、 「母」 > 「祖母」 など) が日本の奄美や喜界島の方言でも起きたことが報告されている (紙面の都合上、その状況ならびにその意味のスライドを生むメカニズムについては、木部 (2013: 41-49) を参照されたい) :

(L) amən 「父」 (akən 「兄」) || (B) akan(-ni) 「父」, (L) ənin 「母」 (əkən 「姉」) || (B) əkənni 「母」, (L) ətə (aməŋa 「父」) || (B) aməŋa 「祖父」, (L) ata (əniŋə 「母」) || (B) əniŋə 「祖母」

以下に見る語は、文語に類義の語幹を見いだすことができる。この方言ではこのような派生語が用いられるものと思われるが、このコンサルタントが派生させて作った語である可能性も考えられる : (L) gomaaga (oŋaa- 「描く」) || (B) oŋaattiwən 「紙」, (L) dolbə (xaatər 「暗い」) || (B) aataššən / aatəllakan 「夜」 (-lakan は propriative か), (L) geelbəti (aw- 「洗う」) || (B) awča 「清潔な」 (-ča は過去形動詞), (L) ŋonəm (gʊəd 「高い」) || (B) gʊodaŋamkar 「長い」, (L) ŋəərin (ŋoobatı 「白い」) || (B) ŋoobaŋaamkar 「明るい」

以下の 2 つの形容詞は語尾の部分が若干異なっている。

(L) gʊəd || (B) gʊodaŋa 「高い」, (L) təəbəŋə || (B) təəbələ 「低い」,

以下に見る語は対応語を文語中に見いだすことのできなかったものである。コリヤーク語などから借用した可能性もあるかもしれない :

(L) təbəəki || (B) jəŋma 「タバコ」 (cf. エウエンキー語: damga) , (L) ŋubukə || (B) kislara 「瘦せた」 (cf. 露 kiskyj 「酸っぱい、未熟な」) , (L) əəntukun || (B) nəšəŋ 「遅い」, (L) oo- || (B) uŋə- 「作る」, (L) dəəumkə- || (B) utə(-d)- 「休む」

なおテキスト中の konaarta [6-037] 「毛皮製のブーツ」は Novikova (1980) によれば、コリヤーク語からの借用語であるという。

2.3. 文法の特徴

同じ東方言に属することのためか、文法に関しては文語との大きな違いはないようだ。したがって先行研究や風間 (2003) で整理した文法要素によって、テキストや例文資料の大部分は問題なく分析することができる。無論、下記の点以外にも、各接辞等、諸文法要素の機能や使用範囲の詳細は文語のそれとは少しずつずれている可能性はあると思われるが、これについてはなお今後の詳細な検討を要する。

以下では文語に見られないブイストラヤ方言独自の文法形式、もしくはある文法形式のブイストラヤ方言独自の用法と考えられるものについて、3 つの点を指摘するにとどめる。なお大文字による表記は母音調和による異形態のあることを示す。例文は特にことわりのない限り、Kornileva 氏よりロシア語の文の key sentence により得たものである。

2.3.1. 共格 -gAli

共格というべき形式 -gAli が見出される ((1)~(3))。管見の限り、この接辞についての先行研究の記述はない。文語の共格は -ŋUn という形式である。しかし同時に文語での共格形式 -ŋUn も使われている (テキスト中の [1-022][2-041] を参照)。この接辞 -gAli は (2) のよ

うに人称代名詞の斜格語幹につくので、やはり格の一形式とみなすことができる。(1), (3)のようにその後ろに人称接辞をとるが、その出現位置も他の格と同じである。

- (1) bii ilə=wul biĵim, ətikəŋ-gəli-j biĵim.

私は どこにでも 暮らそうと、 自分の夫と 暮らす

- (2) noŋan min-gəli əʃni tœrə-m-ʃu.

彼は 私と 話したくない。

- (3) bii noŋaŋ-gəli-n taŋniw shkɔlala.

私は 彼と共に 学んだ、 学校で。

Aralova et al. (2013: 5)にもやはりこの接辞の例を見出すことができる。

- (4) bidditən ətikən atikan-gali.

暮らしていた、 おじいさんが おばあさんと。

エウエン語の他の方言記述にも類似の形式は見いだすことができず、現在のところ、この接辞の由来は不明である。ただし満洲語には gali「さらに、また、その上、～も」という語がある（査読者の御教示による）。

2.3.2. 動名詞化接辞 -ŋA

Novikova (1960, 1980, 1968) にはこの接辞に関する記述がない。Novikova, Gladkova i Robbek (1991: 163) および、コリマ川右岸支流のベレゾフカ川方言(中央方言)の記述 Robbek (1989: 62) には、この接辞についてのほぼ同じ記述がある（したがって Novikova, Gladkova i Robbek (1991) の記述は Robbek によるものと思われる）。以下にその要点を示す：

否定的な叙法を示す一連の語群（turku-dəj「できない（能力・状況）」、nun-dəj「できない（能力）」、obla-dəj「（時間がなくて）できない」、baa-dəj「（やる気のなさから）できない」、həə-dəj「（障害があつて）できない」）があり、これらは語彙的な意味を持つ別の語と共に文中に用いられる。このような分析的な表現において語彙的動詞は特別な標識 -ŋA をとる：bak-ŋa turkurəm「私は見つけられなかった」、xər-ŋə baan「彼には行く気がしないのだ」
(Robbek (1989: 62))

本稿のテキストでは、turku-「できない（能力・状況）」によって否定される動詞の形式として多く現れている（他に 12 例ある）。

- (4) əgdi oodĵi turkuĵinni kɔŋaŋulbu-ŋaʔ.

大きく なってから できなくなるよ、 子供を産むことが、 [8-007~008]

しかし、一方で同じ話者が同じ文脈で、否定される方の動詞（以下、「語彙的動詞」とする）に動名詞 -daa[-人称] を用いている例も見いだされる。

- (5) *bii turkuttiwu məəŋkəən, kəŋaŋəlɪ bakʊ-daa-j.* [8-011~012]
 私は できなかった、 自分が、 子供を 産むことが。

筆者が過去に収集したテキストでも、両方の例を見出すことができる。

- (6) “*jaami xaan turkur ojči-ŋa.*
 「なぜか ある者は できない、 登ることが。」 (Kazama (2009: 132))

- (7) *xaandawor turkuru=si il-daa-wur.*
 何人かは できなかった、 立ち上がることが。 (Kazama (2009: 333))

他方、Kornileva 氏からはこの接辞に関してさらに次のような例を得ることができた。

- (8) *baariw bii tartaki ur-ŋə.*
 する気が湧かない、 私は そこへ 行くことが。

- (9) *noŋman naada bak-ŋa, ilə=wul bidəən.*
 彼を 必要だ、 見つけることが、 どこに いやうとも。

- (10) *oddiji gərgəwči-ŋə, utnəriw.*
 終えて、 働くのを、 帰って休んだ (私は)。

(8)の *baa-*「(やる気のなさから) できない」との共起は先行研究に指摘されていた通りだが、さらにロシア語からの借用語 *naada*「必要だ」、*od-*「終える」などの要素が助動詞的に使われている場合にも、*-ŋA* による語彙的動詞が現れている。これらの要素は否定的ニュアンスを持っていない。

これはおそらく *-ŋA* の使用範囲が拡大したことを示しているものと思われる。*-daa*[-人称] との機能的類似から、本稿ではこれを動名詞と呼ぶことにする。*-daa*[-人称] との違いは、人称接辞をとることにあるが、両者の機能の違いについてはなお明らかではない。

2.3.3. 類推による一種の二重標示

2.3.3.1. 禁止構造の語彙的動詞の動詞形式

一般に文語の命令形は、*V-lɪ* [sg.], *V-(lɪ)lrA* [pl.], 禁止形 (つまり否定の命令形) は *əʃi V-r(A)* [sg.], *əʃilrA V-r(A)* [pl.] という形になる。これは否定動詞によって否定される語彙的動詞が一種の不定形 (*-r(A)*) をとるもので、ツングース諸語に広く見られる否定構造である。これに対し、ブイストラヤ方言の禁止構造は *əʃi V-kɪl* [sg.], *əʃi-llə V-kɪllA* [pl.] という形で現れる (下記の他に[1-037], [2-047]などの例が見られる、なお Novikova (1968: 99, 1980: 76) にはこのような形が「東諸方言において (*v vostochnykh dialektakh*)」現れる、と記述されているが、ここでいう東諸方言とはどこの方を指しているのか明らかにしていない)。

- (11) *əʃi tadʊ-wur nokot-kɪl,*
 [否定動詞] そこに ぶら下がるな、 [8-006~007]

- (12) əji-llə~ mintəki, aas-killa,
 [否定動詞] 僕に 腹を立てないで (あなたがたは), [1-035]

つまり、禁止構造の語彙的動詞の動詞形式が不定形でなく一種の命令形になっているのだが、おそらくこれは肯定の命令形からの類推によるものだろう。

他方、Kornileva 氏から禁止の文をロシア語を媒介言語にして訊いたところ、2 人称単数に対する禁止では、二様の形式でゆれが観察された。

- (13) əji {il-kil / il-ru} .
 [否定動詞] 起き上がるな (まだ病気なのだからベッドからは)。

- (14) əji {nək-kil / nək-ru} .
 [否定動詞] するな

禁止以外の場合には、ブистраヤ方言でも否定動詞はやはり -r(A) の形をとっているので、こちらからの類推も働くことになる。このため上記のようなゆれが観察されるものと考えられる。

2.3.3.2. 3 人称代名詞複数形および所属人称接辞 3 人称複数形

文語の 3 人称代名詞複数形が *noɣartun* であるのに対し、ブистраヤ方言では *noɣartar* となっている。これについては管見の限り先行研究の記述は見当たらない。エウエン語の複数形は一般に -l によるが、/n/ に終わる名詞はこの /n/ を /r/ に変えることによって複数形を形成する (ex. *aawon* [sg.] vs. *aawor* [pl.] 「帽子」 Novikova (1968: 92))。おそらくこの交替からの類推が働いて *noɣartar* という形式が生まれたものと考えられる。単数形は *noɣan* であるので、単数形の語末の n が r に交替した上、所属人称接辞 3 人称複数形 -*tun* がつき、さらにこの接辞末の n も r になっていて、いわば二重三重に複数が表示された形式となっている (つまり、文語の複数形 *noɣartun* もすでに二重標示的である)。さらに文語における所属人称接辞 3 人称複数形 -*tun* も、Kornileva 氏の発話ではもっぱら -*tAr* という形で現れる。

- (15) *noɣartar* ʃʊʊ-tar
 彼らの 家

- (16) *noɣartar* kəkəri-tar.
 彼らは 死んだ。

テキスト中では、[1-002], [2-028], [5-047], [5-048], [5-050] などに見られるように、所属人称接辞 3 人称複数形はもっぱら -*tun* の形で現れている。Aralova et al. (2013) も同様である。したがってこの変化はまだ起こり始めたばかりのものであるか、もしくは、なお Kornileva 氏のパロールの次元にとどまっているものと思われる。

3. テキスト

以下に各テキストの話者および内容に関する情報を記しておく。

テキスト 3.1.~3.5.はアナウガイにて Solodikova, Raisa Maksimovna 氏 (1945 年 Tvajan 村生まれ) より録音した。氏は学校の図書室にお勤めで、物語などに関心が深い方である。氏はヤクーツクの E. N. Bokova 氏の書いたエウエン語の民話集 (Bokova (2002)²) を読み、これをロシア語や自分の方言に訳すことを思い立ったという。氏はロシア語もしくはエウエン語に訳した御自身の手書きのノートを見ながら語って下さった。3.1.~3.4.は Bokova (2002) に基づくもので、筆者はこの本を所有しているので、帰国後出典の箇所を確認した (以下に Bokova (2002) のページを示す、3.1.: 108-109, 3.2.: 187-188, 3.3.: 109-111, 3.4.: 186-187)。3.1.の話は、Solodikova 氏のお母様もやはり同じ話を語っていたものであるという。3.5.は Solodikova 氏自身が書き留めた物語であるという。テキスト 2 はクマとの異類婚姻譚である。類話はウデヘやナーナイで記録されている (風間 (2011: 29) 参照)。しかし話の筋はかなり異なっている。筆者の知る限りでは、他の話の類話は記録されていない。テキスト 3.3. はタルバガンに対するクマの行動の由来譚となっている。

テキスト 3.6.~3.11.はエッソにて Egorova, Rimma Maksimovna 氏 (1954 年 Tvajan 村生まれ、ちなみに氏は Solodikova 氏の御妹さんである) より録音した。3.6.は簡単な一代記、3.7.~3.9.は火などに関するタブーの話、3.10.は漁労と魚の調理法に関しての話、3.11.は植物利用に関する話である。全て実話で民族学的な情報を多く含んでいる。3.10.と 3.11.は特にカムチャッカの自然にエウエンがどのように適応しているかを知ることのできる重要な資料となっている。魚を地面に埋めて発酵させてから食する習慣や、根茎を食べる習慣などは少なくともより南の地域のツングースでは一般的ではないので、イテリメンやコリャークから取り入れたものなのかもしれない (発酵させた魚をロシア語で *kusla* と呼んでいることも新しく取り入れたことを示唆しているものと思われる)。なお Egorova 氏の父親はトナカイを見失った際に、コリャークよりベニテングダケによって覚醒状態となる方法を教えてもらい、トナカイを見つけたことがあったという。

他方、トナカイ遊牧に関する情報を得られなかったことが、今後の課題として残っている。Egorova 氏はマックス・プランク研究所から来た研究者と仕事をしてきた経歴があり、かつて新聞にエウエン語による紙面があった頃にその校正等もなさっていたということで、テキストの書き起こし等の仕事にもなれていらした。書き起こしはもっぱら筆者が録音を聞いて書き起こしたものを Egorova 氏に修正していただき、意味をつけていく、という形で行った。なお訳に下線のある部分はなお検討の余地のあると思われる箇所である。

テキスト 3.4.の書き起こしには、アナウガイの M. N. Tarasova 氏 (1957 年 エッソ生まれ) ならびに M. L. Cherkashina 氏 (1961 年 Tvajan 生まれ) に協力していただいた。他の 10 のテキストの書き起こしは全て Egorova 氏に御協力をいただいた。なお魚や植物の同定や学名に関して、呉人 (2009) を参考にさせていただいた。

なおテキスト中の - は付属語境界を示し、~ は引き延ばして発音されたことを示す。下線を付した訳に関してはなお検討を要するものである。母音の長短、および一部の母音に

² この本は書誌情報などを除き全編エウエン語のみで書かれている。なお Bokova 氏のエウエン語は中央方言である。

は同じ語であると思われるものでも若干一貫していないものがあるが、これは発話および録音に従い「ゆれ」をそのままに表記したものである。これらに関してはなお今後の検討を要する。

3.1. 「牧童とカラスのウーリンジャ」

2014/08/13 Anavgaj にて、Solodikova, Raisa Maksimovna 氏より録音

1-001

nımkaan gərbun kəsčimɲət ńaan ʊlɲja.

物語の 名前は 牧童、そして ウーリンジャだ。

1-002

ʊlɲja ərək tɔraaki.

ウーリンジャ、これは カラスのことだ。

1-003

tiitə~l ɔmən kəsčimɲə urkə~n orolbɪ kəsčijjəottən.

ずっと昔、一人の 牧童の 少年が 自分のトナカイたちを 放牧していた。

1-004

nəlka, ńaan inəɲəlɲi ʊkal bisitən. urkəən orolbɪ,

春で、 ほうら 日は 長くなって いた。 少年は 自分のトナカイたちを

1-005

isəyɔ, ɔŋkottɪn, oral ɔmən, tɔərdu, ɔŋkajjəottə.

森に 放牧した、 トナカイたちを ある 場所に 放牧していたのだ。

1-006

əəńək, orom aačča bisin. oron ɔŋkajjaaklan

逃亡するような トナカイは いなかった。 トナカイの 放牧地には

1-007

əmnəttə~n jaakitan, isɔrɪn. jaakita atlan ʊkal tɔər

ただ グイマツだけが 生えていた。 グイマツの 下には もう 地面が

1-008

irəlča bisin. ńaan urkəən jaakita atton.

(雪融けで) 現れて いた。 さあ 少年は グイマツの 下で

1-009

dəsčijjəottən, ɲaaločijjəottan məəni. ɔmnəkəən tačɪn

横になった、 日向ぼっこした、 自身を。 ある時 そんな風に

1-010

dəsčiddəkən, tɔraki ʊlɲja doorm.

横たわっていると、 カラスの ウーリンジャが 舞い降りた。

1-011

urkəən aɪmakaan dəsčisɲiji aač iylə, biɲillin.

少年は とてもよく 寝ていて、 動かなかった、 そうしていた。

1-012

ńaan ʊlɲja, doočijɲɪn, bæi-gəčɪn tɔərəəsnɪn.

さあ ウーリンジャは 降りるとすぐに、 人間のように 話し出した。

1-013

“əɾə~k bəi, kəkəčə urəəčinni. tiiniw-də əčin dəsčiddin.
「この 人は、 死んでいる みたいだ。 昨日も こんな風に 横たわっていた。

1-014

tiək tačm-təttə dəsčiddən. tiək bii jaalbı, gəlnəjim.
今 そのままに 横たわっている。 今 私は 自分の仲間たちを 呼びに行こう。

1-015

təəlɯndəj ɲaan tımna, ələ əmjiru. noŋman
教えてやるために。 ほうれ 次の日に ここに 私たちは来よう。 これを

1-016

amtədawər nəkru.” ɲaan dægəllin. tımın ɲaan urkəən,
味わってみると しよう。」 それから 飛び立った。 次の日 また 少年は、

1-017

ɲaan-da ələə-təttə, orarbı ilbərin. tačm-da
また ここへ 自分のトナカイたちを 追って来た。 そんな風に

1-018

oŋkačı..., oŋkaɟıllakatan, dəsčijlrən tadu-t jaakıtaŋı attun.
放牧して来ると、 横になった、 あそこに 自分のグイマツの 下に。

1-019

un-də dəsčiddəkən jaamı~ ʊlɯŋjal ooja
そのまま 横たわっているうちに、 なんとか ウーリンジャたちが たくさん

1-020

dəgsə. ɲaan əgʲəŋətən ʊlɯŋja gəenni,
飛んでいる。 さあ 彼らのうちの年輩の ウーリンジャが 言った、

1-021

“ɲıagdalı, dolla, bii ədu, ədu-t doottakʊ.
「下の方へ 降りよ、 私が ここに、 ここに 降りよう。

1-022

tiək-əsi, atıkajan, ii urəlnumi, bəədəlgidədun, doolla.
今 おばあさんは そう、 自分の子供たちと共に あの足の所に 降りよ。

1-023

tala čoŋkalla. bii-si əgʲəčəənʲi jaak, dılgıdökün nəkčim.”
そこで ついばめ。 私は 年輩だから、 何だ、 頭の所からに しよう。」

1-024

ɲaan tačm tar, jaalnı, doorıtən bəədəldun, məŋkən-əsi,
さあ そんな風に そうして、 仲間たちは 降りた、 足の所に、 自身は、

1-025

dılun, attən, doorıɟı, čoŋkasandaj kımın.
頭の もとに 降りて、 突つつこうと 準備した。

1-026

ɲaan, čoŋkasandaj nəkrəkən jaamı, ʊlɯŋja ırkasamnən
さあ 突つつこうと した時に、 なんとか、 ウーリンジャが、 叫ぶやいなや

1-027

təgəndəən, ʊlɯŋjal ɲaan oollıjʊr
急に起き上ろうとしたので、 ウーリンジャたちは さあ びっくりして

1-028

mərgəmur bərir. ŋaan tačɪn uŋniʃur jaamɪ, ʊlɪŋja,
意識を 失った。 さあ そんな風にして、 ウーリンジャは、

1-029

əɟən ʊlɪŋja, aɪm...., uŋniʃi, arrɟi ŋaan
年輩の ウーリンジャは、 ああしてから、 目を覚ましてから さあ

1-030

gəenni, “urkəə, jaasčɪnnɪ tačɪn munu
言った、 「少年よ、 どうしたくてしたんだ、 あんな風に、 私たちを

1-031

oolokačɪnnɪ, jaadaj munu ɪrkaŋgannɪ, jaak buu,
驚かしたのか、 何のために 私たちを からかったのか、 何で 私たちが

1-032

iiniw ʃəbbəettu, buu kəkəčəw-təkən amtəwaattu.
生きているものを 食べようか、 私たちは 死んだものだけを 食べようとするのだ。

1-033

əkɪt-tittə aaša oolukanannɪ munu kəjəenni ʃaalbɔ-da əəɪdu
おまえは ひどく びっくりさせた、 私たちを。 見よ、 仲間たちは 皆

1-034

dəsčɪr.” ŋaan ʊlɪŋja tačɪn uŋəddəkən jaamɪ,
倒れている。」 さあ ウーリンジャが そんな風に ああした時に、

1-035

urkəə ŋaan, gəenni, “əʃillə~ mintəki, aaskilla, bii
少年は さあ、 言った、 「どうか 僕に 腹を立てないで、 僕は

1-036

ɪrkaŋgadaj nəkriwu, əčɪn-də ŋaan, ɪrkaŋgamɔ oodnɪ,
ふざけて みたかったんだ、 こんな風な ほら、 冗談を思いついた、

1-037

əkɪt bii ŋomarinəm-da. əʃillə, mintəki ɪrkillə, iŋə?”
ひどく 僕は 恥ずかしいな。 どうか 僕に 気を悪くしないで、 ね？」

1-038

”čaasɪ, iŋə,” ʊlɪŋja gəenni, ŋaan ʃaalnɪ
「まあいい、 よし、」 と ウーリンジャは 言った、 それから 彼の仲間たちも

1-039

jaamɪ ɪlɟaannɔ, nasɪɔ ɪlɟaannɔ. ŋaan,
何とか 立ち上がった、 やつとのもので 立ち上がった。 さあ、

1-040

dəɟəlɟaanna tar. aɪmaka~n uŋniʃi ŋaan
飛び立って行った、 そうして。 よく 回復してから、 それから

1-041

ʊlɪŋja, gəenni, “čas ɔrdəkun,
ウーリンジャは、 言った、 「まあいい、 私たちは行くでしょう、

1-042

ətəru ɪrrə ənikən ook-ta tačɪn,
私たちは ああしない、 決して 今後はいつだって あんな風に

irkannjar.”	ñaan	tačin	tar,	dəgalləkətan
ふざけたりしないようにせよ。」	さあ	そんな風に	そうして	飛び立って行くと、

ñaan ʊʌɪɲja, məə..., ɪɾɪɪɾɪjɪ
さあ ウーリンジャが、 飛び立ってから、

ñaan uŋəjilrin, mærgəčijilrin gəenni, “oon jaadv
さあ ああし始めた、 申し訳なく思い始めた、 言った、 「どうして 何のために

naan bii əčin uŋniwu ńaan-a, kəəñəlič ɪrkanɟariwu.”
 ほら 僕は こんな風に したんだろう、 ああ 悪い仕方です ふざけてしまった。」

ñaan	tadok	ñaan	un̄jhoettən	goru~,	ittij̄i
さあ	それから	さあ	彼はああするようになった、	長いこと	見ていてから

tar, ĵaalbɪ tar ʊlɪnʃalbʊ əmi ittə,
 そうして、 自分の仲間を、 その ウーリンジャたちを 見かけなくなると、

borbailloottan, ñaan, miawanni~ əsni ač unjəəttu,
心配するようになった、 さあ、 彼の心は、 落ち着かなくなるのだった、

ñaan turuċijǽǽññeettən mǽəni, gǽləǽllǽettən-da
それから 気持ちを静めるのだった、 自分の、 いないのを寂しく思うのだった、

tar	ǰaa...,	tɔrakɨŋalbi.	ñaan	tar.
その		カラスたちを。	さあ	そんだ。

3.2. 「クマをどうして大事に扱うのか」

2014/08/13 Anavgaj にて、Solodikova, Raisa Maksimovna 氏より録音

nimkaan	gərbən,	nakatv	jaamı	oǵawaattan.
物語の	名前は、	クマを	どうして	大事に扱うのか、だ。

tiitə~l ɔmən asaatkan, gələtəddin bərinə, orom.
昔々 一人の 女の子が、 探していた、 見失ってしまった トナカイを。

ukal inən bisin. okaatəl-da ukal bukudditən, tər-da inəməddin.
 もう寒い頃 だった。川も もう 凍っていた、大地も 凍っていた。

asaatkaan, buila, ɲənnin, ɲaan tikrin, kəəŋgʊlələ.
 女の子は 森に 行った、 それから 落ちた、 穴に。

kæŋgula ægʝæn bisin, əɾəɣər ukəllin awʊski-wuɕ ɲaan,
穴は 大きかった、 長いこと 転がって行った、 どこへか、 さあ、

2-006

bakrɪn, əgʲəə~n, kəəŋgʊlə. tarak-maja kəəŋgʊlə, bisən
見つけた、 大き～な 洞穴。 そいつはたぶん 洞穴は、 あれだった、

2-007

kobalaan juun. kobalaan ŋaan okal-da oklaasnɪn, tugənidu
クマの 住みかだ。 クマは さあ もう 寝ていた、 冬に

2-008

oodakan. iŋəmnə~ bisin. asaatkan, gɪrkərɪn,
なっていたので。 寒いのがあった。 女の子は 歩いて行った、

2-009

ŋaalʲɪ-da ʲuləp..., ŋaal ʲuləpki uŋnikəən təminikəən. ittən jaamɪ,
手で… 手で 前の方を ああしながら、 探りながら。 見た、 何だか、

2-010

ŋaan uŋnən jaakučɪ-sɪ, təmbəkən-də nəbuli-də ŋam-a. tarak-məja
さあ あれ、 何か、 柔らかくて、 毛深くて、 温かい。 そいつはたぶん

2-011

bisin, kobalaan. ŋaan mɪalokaannɪ, asaatkan əŋullin,
あれだった、 クマだ。 さあ 目覚めさせた、 女の子は びっくりした、

2-012

ilgənikəən, ŋaan, itəji nɪpkərɪn, i aməskɪ mɪčʊsnɪn.
震えながら、 さあ、 自分の顔を 覆った、 そして 後ろへと 後ずさった。

2-013

kobalaan, əçi jaaw-da, nəkrə, əttə-tittə ičisnə.
クマは、 何も しなかった、 目をくれようとしなかった。

2-014

kʊličaan ŋaan turkurin ŋooŋa, urkəw turkurin, bakŋa.
女の子は さあ できなかった、 逃げ出すことが、 扉を 見つけられなかった。

2-015

čəələlin-tittə, ərəli ŋən..., gɪrkərɪn. əgʲən-ə~ dəəmŋə bisin umukič.
そこいら中 周りを 歩き回った。 大きくて 広がった、 とても。

2-016

kobalaan ŋaan, asaatkaam ančɪndɔlar təgukəənnin.
クマは ほうら 女の子を 自分の近くに 座らせた。

2-017

kobalaan ɪldaj nəkrin ŋaan..., asaatkan ɪldaj nəkrin
女の子は 立ち上がろうと した、 ほうれ 女の子は 立ち上がろうと した、

2-018

ŋaan, kobalaan ŋaan-da təgukəənni. tačɪn tar
ほうれ クマは 再び 座らせた。 そんな風に そうして

2-019

gorʊ~ uŋənɪn asaatkan, ŋaan irəkən əsəəllin.
長いこと ああしていた、 女の子は、 そして 疲れて来た。

2-020

ʲiməllin-də, məəw-də kooldaj nəkrin, ŋaan kobalaan, kəjəə..., ittin,
お腹が空いて来た、 水も 飲みたくなった、 さあ クマは 見た、

2-036

girkawačiddan. noŋman..., maami-da noŋman maalla, minu
歩き回っているのは。 彼を... 殺すなら、 彼を 殺せ、 私には

2-037

əjillə nək..., jaar-da.” “gujəə~ ɪlaajɪn nəəčəmun
決して 手を出すな。」 「かわいそうに、 気の毒に、 私たちの妹よ、

2-038

jaami ii ərrəəčinni oodiš, əŋuñu-kəə əŋuñu-kəə.”
どうして おまえは こんな風に なってしまったのか、 恐ろしい、 恐ろしい。」

2-039

agdaŋnɪni, ɪrkallitan ñaan ñoomalčiritan, ñaan tačɪn-ta,
兄たちは 叫び出した、 そして 急ぎ逃げ去ってしまった。 さあ そんな風にして

2-040

asaatkaan kobolaan oodɪn. biʃillin ərəgər ərəgləən
女の子は クマに なった。 暮らし始めた、 常に ずうっと

2-041

kobolaannɪn biʃillin, ɔlaaptɪn. təəmi-də, ɪbʃiri,
クマと共に 暮らし始めた、 居残った。 このために、 何者も、

2-042

əstən, kobolaan ook-ta, əəsəjjeəttə, noŋman uŋə
しない、 クマを いつだって 怒らしたりしないのだ、 彼のことを、 あれと

2-043

geəwətti, aaniwar bidəən, maami-da, əstən geəwəttə,
いつも言っている、 親戚で あると、 殺しても、 彼らは 言わない、

2-044

maariwɪn, geəwətti, urəəriwun. urkəərka, nəetən
殺したのだとは、 言うのだ、 間違えたのだと。 若者たちは、 彼らの妹は

2-045

tačɪn tar geənin, “ii geəŋnəəlla,”
こんな風に こう 言った、 「あなた方は 帰ってこう言え、」と

2-046

abaga, “geəŋnəli-də urəəwuriwun. maami-da,
クマは、 「言うようにせよと、 私たちは間違えたのだと。 殺しても、

2-047

əjillə, usiŋətkəəkəllə ulləw, jibmi geəŋnəəlla,
決して 投げ散らかしてはならない、 肉を、 食べるなら 言え、

2-048

kɪŋararəp, maami ñaan jaasulloŋ nipkəgrəəlla, jaač-ta məər
子供たちは、 殺したら、 ほうれ 目を 覆え、 何かで、 自分らの

2-049

oidokowər gadiŋʃər, ñaan urrəən, miinəriʃur, eetajɪn
服の中から 取って、 ほうれ（クマの） 腹を 切り開いてから、 脂肪で

2-050

əsigrəəlla. koratton-osi orat..., oratač, ipkəgrəəlla.
塗れ。（クマの） 耳は、 草で 突っ込んでおけ。

2-051

amɣalɪn-ʊsɪ, moow, ɲɣuraalla. iičči, mudəsəndəən,
 その口は、 棒を 押し込んでおけ。 歯で、 くわえているように、

2-052

tarakam-takan ɲaan, isseən, ataləʃɪlgraalla, tačɪn
 そうしたらそこで初めて ほうれ、 その皮を 剥ぐようにせよ、 そんな風に

2-053

təəmi-də gəəɣnəəllə tadək, jaak bii inu nəkriwu,
 その後は 戻って言うようにせよ、 それから、 何か 私が おまえに したことは、

2-054

jaak bii inu maariwə, inu, maarɪn, aɣɪdala
 何か、 私が おまえを 殺したことは、 おまえを 殺したのは、 別の所に

2-055

bisi, ʃibʃilmi-də, gəəɣnəəllə kəə, ulləw,
 暮らす (よそ者だ)、 食べ始める時も、 言うようにせよ、 クウッと、 肉を

2-056

nəədɪʃur, ʊŋkapəm ooɣraalla, jaattək, talɪ jaatlɪ, mɲɪʃɔr,
 置いて、 輪を 作るようにせよ、 小枝で、 そこに 小枝に、 刺してから、

2-057

ʃoldawkaanniʃɔr ʃəbgrəəllə.” tiək-ə.
 固定してから 食べ始めるようにせよ。」 そこまでだ。

3.3. 「タルバガンとクマ」

2014/08/13 Anavgaj にて、Solodikova, Raisa Maksimovna 氏より録音

3-001

nɪmkaan gərbən, čaamak ɲaan abaga. tarbagan, i mɛdvedʹ.
 物語の 名前は、 タルバガン、それから クマだ。 タルバガン と クマだ。

3-002

tiitə~l, čaamak, ʃʊɣaj ooddɪn.
 昔々、 タルバガンが 自分の家を 作った。

3-003

əmɲəkəən noɣan, ɲəəriʃi, ʃʊdɔki, kəʃəəttiʃi ərəli,
 ある時 彼は、 外へ出て、 家から、 見回して、 あたりを、

3-004

ɲamalčɪʃɪlɾən ɲəəltəndulə.
 日向ぼっこし始めた、 太陽に。

3-005

ɲaan jaamɪ ittən, məɡdin əʃələn kobolaan, uləddən təəru
 ほうれ 見た、 崖の 上に クマが、 掘っていた、 地面を、

3-006

ɲɪŋtəw ʃəbdəʃ ɡələtəddən. ittɪʃi, čaamakʊ, əntəkəʃə aassɪn.
 根菜を 食べようと 探していた。 見て、 タルバガンを、 ひどく 怒り出した。

3-007

“ii-li, čaamak, minu..., minnun..., mintəki
 「おまえは、 タルバガンよ、 オレに

3-008

ŋaawanni, ii-bədi kučukəən bisənni, ii
襲い掛かって来ようと言うのか、 おまえなんか 小さいくせに、 おまえは

3-009

bidəj nəkənni mindək-ta əŋi bidəj nəkənni,
そうしようと するのか、 オレより 力が あると いうのか、

3-010

ətənni-da-titta minu dabdokaan. čaamak əŋullin.
おまえは決して オレを 負かせやしないぞ。 タルバガンは 驚いた。

3-011

iiməlčirin joolaj. ŋaan tadək əŋunniŋi gəənni,
急いで入った、 自分の家に。 ほうら そこから 驚きながら 言った、

3-012

“iŋə~, aka, ii əgǰə~n bisənni, ii čəələdukun
「はい、 お父さん、 あなたは 大きいです、 あなたは 全ての者より

3-013

əŋi bisənni, in urəəčin-si ələ aačča-da-titta.
強い です、 あなたの ような人は ここには 誰もいません。

3-014

ii-k, oon-ka ii bisənni, bii turkuŋim,
あなたが そのようである あなたの ようになど、 私は できません、

3-015

iŋə, bii turkuŋim, imannalə gırkaŋa, min-usi beədalu
そうです、 私は できません、 雪の中を 進むことも、 私の 足は

3-016

urumkun, iŋənduk-tə turkuŋim, kəkəŋim ŋaan-a,
短いんです、 寒さに対しても 耐えられません、 死んでしまいます、 ほうら

3-017

turkuŋim-də, imanna ərdədukun, jaaw-da ullə.
私はできないんです、 雪の 下から 何も 掘り出すことだって。

3-018

jiməlŋim. tačin ŋaan əəidu čuurkinŋim.
飢えることでしょう。 そんな風に さあ 全く くたばってしまうでしょう。

3-019

jaami, tərdu-tittə ətəən, minu, jaaw-da nəkra.”
そして、 地面の上でも 私のことを 何とも しないでしょう。」

3-020

ərəw dolduriŋi kobolaan, oodmar-da ırallim.
これを 聞いて、 クマは さらに激しく 怒り出した。

3-021

ŋaan kurgərlin noŋantakin. “jaami, tačimər tərənni.
そして 唸った、 彼に向って。 「なんで、 そんな風に おまえは言うのか。

3-022

jaadaj mintəki čiiŋəənni. jaak min gurgəwu
どうして オレに キーキー言うのか。 何が オレの 関わることだろうか、

3-023

ijəmnɪwəʃ-tə, ʃəmsiwəʃ-tə, ii mintəki,
おまえが凍えようと、 腹を空かせようと、 おまえが オレの方を、

3-024

mintəki kəjəəttəkəs, bii jaasalos, uččim. itiwus,
オレの方を 見るなら、 オレは おまえの目を、 くり抜いてやる。 顔を

3-025

əʃijim.” ŋaan tačɪn tar, oɣari, uŋniʃi,
引っ搔いてやる。」 さあ そんな風に そうして、 自分の掌を、 ああして、

3-026

kɪmnəʃi, kobalaan noɣantakɪn ʃilɣənčɪn. əŋullɪʃi, čaamak,
準備して、 クマは 彼の方へ 飛び掛かって来た。 驚いて、 タルバガンは

3-027

təɣələə~ ʃʊləj diknin. “ŋii ŋaan uŋʃin, kobolaam
奥へと 自分の家に 隠れた。 「誰が ああできるだろう、クマを

3-028

aj oowkaanʃin. əɣʃəən-də əstən, əɣʃəən-də uŋə, əəidu
良く 落ち着かせられるだろうか。 大きい、 できない、 大きい、 あれだ、 全く

3-029

ŋaan minu əpkunʃin tariʃit ŋaan, kɪbalʃin.”
さあ 私を 捕まえるだろう、 すかさず バラバラにするだろう。」

3-030

čaamak əŋullɪʃi ŋaan kiəkəəʃnən,
タルバガンは ああし始めてから（恐れて）、 さあ キーキー鳴き出した、

3-031

kobalaannɪ bəədələn əəlɣəlɪn ŋooɣčɪn.
クマの 両足の 間から 逃げ出した。

3-032

kobalaan ŋaan pasakasamnɪn..., oɣarʃi, uuttin čaamako.
クマは さあ、 パンと叩いた、 掌で、 追いかけた、 タルバガンを。

3-033

čaamak, əŋullɪʃi, ɪlkan əntəkəjə ŋooɣčɪrɪn,
タルバガンは、 恐れて、 本当に 懸命に 走った、

3-034

kobalaan ʊptokan. kobalaanɣɪ-sɪ, ŋooɣčarak-a iirək-ə, dɪlan,
クマを 引き離した。 クマの方は、 走るのに 必死になったので、 頭が

3-035

arɪlbɪllan. ŋaan kəjəriʃi, turkuriʃi, kobalaa..., čaamako
フラフラし出した。 さあ 見て、 できなくて、 クマは タルバガンを

3-036

bokɣa, amuskɪ močʊʊrɪn, kobalaan-ʊsɪ kəəkurli
追いかけることが、 元来た方へ 戻って行った、 クマは。 斜面に沿って

3-037

ŋoon..., ŋooɣčɪrɪʃi, oɪčɪrɪn, ʊpkəčən əəjələn.
逃げて行って、 登った、 山の 上へ（タルバガンは）。

3-038

tadok-makan irraasniŋi ŋaan, uŋčeri, aasčaji-da ŋaan
それからやっと 呼吸が静まって さあ、 ああした、 侮辱への仕返しに ほうれ

3-039

uŋəjillin. inimərniji oosajillm, “kobalaan əkukee~,
ああし（叫び）始めた。 笑って からかい始めた、 「クマよ、 どうだ？、

3-040

kəjənni tiək, boknənni minu. əgəə, jaak-ası ii
見ろ、 今、 追ったのか、 私を。 ああ、 何が おまえは

3-041

uŋən biŋinni, iŋmaan biŋinni, əŋin biŋinni,
あれな もんだろうか、 すばやい ものだろうか、 強い ものだろうか、

3-042

uptunni mindu, əgəgəə~.” tadok ŋaan, kobalaan,
遅れをとった、 私に、 ほうれ？。」 それからは ほうれ、 クマは

3-043

ook-ta əsni, uŋəəttə, čaamakū turkuwəəttən
いつだって、 そいつは ああしている、 タルバガンで、 ああはできなくなった、

3-044

tar ʃolakaylı gələtŋə. tarakam təəmi-daa-kka əstən ŋaan,
ほれ 石の間に 探すことは。 それから そのためか、 彼らは ほうら、

3-045

oračil, oramŋal kobolaandok ʃəjəčəəttə
エウエンたちは、 トナカイ牧民たちは、 クマから 隠すようになったのだ、

3-046

aawmər-da, oŋor čaamak iistukun aŋaančawər.
自分らの帽子を、 服を、 タルバガンの 毛皮から 縫製したものを。

3-047

kobalaan-ka ʃoŋčm taraw aasčaj čaamaktakı,
クマは 覚えている、 あれを、 腹を立てたことを、 タルバガンに。

3-048

ŋaan nasukčm tar oromŋul oŋilbətən.
ほうれ 引き裂くのだ、 ああして トナカイ牧民たちの 服を。

3-049

etu skazku, zapisala Bokova Evdokij Nikolaevna,
この 話を、 記録した、 ボーコワ、 エヴドキー ニコラエヴナが。

3-050

iz rasskazala Marija Ujaganŋan.
語ったものから、 マリア ウヤンガンカンが。

3.4. 「蚊」

2014/08/13 Anavgaj にて、Solodikova, Raisa Maksimovna 氏より録音

4-001

ərək təələŋu oŋarın, Bokova Evdokija Nikolaevna, pisatel'
この 物語を 書いた、 ボーコワ、 エヴドキー ニコラエヴナが、 作家だ、

4-002

jakutijadok, *orač,*
ヤクーツク出身の、 エウエンだ。

4-003

əmən *ǰoyanıdɔ,* *ooja* *kɔlɪčaan* *bisin,* *oral* *aanda*
ある 夏に、 たくさんの 蚊が いた、 トナカイたち や

4-004

dilgəŋkəl *amasčɪwaatta,* *kɔlɪčaandok* *bəil* *əčɪn-də* *illutən-təttə,*
獣たちは 苦しんだ、 蚊のために。 人々も こんな風に 苦しんだ、

4-005

əmən *ujumkun* *mərgəŋjə* *asɪ,* *čakrɪjɪ* *kɔlɪčaarbɔ* *ələklə*
一人の 賢い 女性が、 集めて、 蚊たちを、 袋に、

4-006

əntəkəjə *əəħərin,* *ŋaan* *tugənəkləən* *taraw* *nəəkčirin,*
きつくきつく（口を） 縛った、 さあ 冬になるまで それを とっておいた、

4-007

tuyəni *oodakan,* *noŋan* *ŋuurin* *ələki* *tuləəski* *kɔlɪčaarbɔ* *ŋaan*
冬に になると、 彼女は 出した、 自分の袋を 外へ、 蚊たちを さあ

4-008

kuŋkirin *ɪmannala.* *gəənikən,* “*tiək-kəə,* *kɔlɪčaar,* *minu* *ǰoyanıdɔ*
放った、 雪の上に。 こう言いながら、 「今こそ、 蚊どもよ、 私を 夏に

4-009

ɪlgittisən, *ələyər* *kɪkrɪsən,* *tiək,* *uu,* *min*
苦しめたわね、 いつも 刺したわね、 今こそ、 おまえたち、 私を

4-010

biččədu, *ɪlgɪtlɪlə* *məər,* *ɪllɪllə,* *ɪŋəmnɪllə,* *bii-si* *ǰoodɔ*
いるのを 苦しめてみよ、 自分らを、 起きよ、 凍えたか!?, 私は 家に

4-011

bijjim, *ŋamdɔ,”* *tiək* *tačɪmər* *tawar* “*ɪllɪllə,”*
いるわ、 暖かい所に。」 今 そんな風に ほうれ 「起きろ、」 と、

4-012

“*ətəəs,* *ǰuləpki,* *ibjiriw,* *ɪlgittə.*
「おまえたちはしないだろう、 今後は、 何者をも、 苦しめないだろう。

4-013

tačɪmərə-ə, *tačɪmərə* *ɪllɪllə,”* *ŋaan,* *ɡɪa* *ǰoyɔni* *oodm,*
そんな風に そんな風に 起きろ、」 と、 さあ、 次の 夏に なった、

4-014

kɔlɪčaan *oodmar-da* *ooja* *oodm.*
蚊は さらに多くも 多く なった。

4-015

əšəmi *təgəčɪn* *urəəčilni,* *biwəəttɪl,* *kɔlɪčaar* *dəggəəttikən,*
まさに 以前の ように、 そうであるように、 蚊たちは 飛び回ると、

4-016

kɔlɪčaar *ŋaan,* *asɪw* *taraw,* *kəkəəwkənɪtən,*
蚊たちは ほうれ、 女性を その、 刺すのだった。

4-017

asi, turkurin kuličaardok, ırasıa, geewoetta oon-ka,
女性は、できなかった、蚊たちに 怒ることも、言ったのだ、このように、

4-018

apkattitan kuličaar noıman, “ooja kuličaan bisəkən,
彼らはああした、蚊たちは 彼女を、 「たくさんの 蚊が いたとしても、

4-019

əjillə ook-ta, kuličaar ıgnıgraar, əjillə ııkan mıaıçıgraakılla,
決して いつだって、蚊に 腹を立てるな、決して 本気で 相手にするな、

4-020

noıman-takan ərəyər geerınəllə, aıç, kuličaam jaak dilgəıkəllə
そいつを、 いつも 言っているように、 良く、 蚊を 何の 動物たちが

4-021

uııgeetta, oıııwaatta dəggeəttıl-tikən čuokačaar-takan
ああしていることか、 ああしていることか、 鳥たちだけが、 小鳥たちだけが、

4-022

kučukəər tar noıman čəıkawaatta, kuıal-a əjillə,
小さいのが ああして そいつ (蚊) を 啄むのだ、 我が子供たちよ、 決して

4-023

kuličaam deerugrəkıllə, ələkən biddən, tačm-da tar,
蚊を ああするな、 そのままで いさせよ、 あんな風に ああして、

4-024

iınni bisni, ooja kuličaan bisəkən əjillə ookaıçıgraalla,”
生きて いるのだ、 たくさんの 蚊が いても、 決して ああするな、」 そう

4-025

geerınəllə, “ələkən bidətən-ə ətəər-bədi əntəkəje kıkııı,
言っていた、 「そのまま いるように、 彼らは そんなにひどく 咬みはしない、

4-026

əčın-də iınni bisni,” tiək-ə.
こんな風に 生きて いるのだ、」 それまで。

3.5. 「倉」

2014/08/13 Anavgaj にて、Solodikova, Raisa Maksimovna 氏より録音

5-001

əınnəkən diləkən dəgədmi ııagla nəəkuw bakrıı.
ある時 ハエが 飛んでいて、 森を、 倉を 見つけた。

5-002

ııaan tala bıjılın. bıjəəınnin onıııııkaan.
さあ そこに 暮らし始めた。 長いこといた、 一人きりで。

5-003

ııaan əınnəkən kuličaan tala doorjı kuıkərin,
さあ ある時 蚊が そこに 下りて来て 戸を叩いた、

5-004

“ıjıı ələ nəəkulə bisni?”
「誰が ここに 倉に いるのか？」

5-005

“bii diləkən dirəŋə bisəm, ii-nən ɲii bisənni?”
「この私、 ハエの ブンブンというのが いるんだ、 おまえは 誰 なんだ？」

5-006

“bii, kəlɪčaan kɪkalan bisəm.”
「私は、 蚊の 刺す奴 だ。」

5-007

“əmnə əwəski, əməttu biddəwur, ənikənnun minu kɪkrə.”
「来い、 こっちへ、 一緒に 暮らそう、 ただ 私を 刺さないように。」

5-008

ñaan biɟilritən əməttu. tadək ñaan obaka ñooŋčirɟi
さあ 暮らし始めた、 一緒に。 それから さらに ハタリスが 走って来て

5-009

kuŋkərin, “ɲii ələ nəəkulə biddən?”
戸を叩いた、 「誰が ここに 倉に 住んでいるのか？」

5-010

“buu bisu, diləkən dirəñə, kəlɪčaan kɪkamɲə. ii-nən
「私たち だ、 ハエの ブンブンと、 蚊の 刺す奴だ。 それでおまえは

5-011

ɲii bisənni?” “bii obaka bisəm.”
誰 なんだ？」 「私は ハタリス だ。」

5-012

“əmnə əwəski əməttu biddəwur, ənikənnun keekəjilrə
「来い、 こっちへ、 一緒に 暮らそう、ただ キーキー言わないように、

5-013

ʊʊrɒnnɲɪn.” ñaan biɟilritən ɪlnɟɔr. ñaan tɪmɪn mɒnnɒkan
うるさいから。」 さあ 暮らし始めた、 三匹で。 次の日 ウサギが

5-014

ñooŋčirɟi kuŋkərin. “ɲii ələ nəəkulə biddən?”
走って来て 戸を叩いた。 「誰が ここに 倉に 暮らしているのか？」

5-015

“buu bisu, diləkən dirəñə, kəlɪčaan kɪkalan, čɪmakčaan obaka,
「私たち だ、 ハエの ブンブンと、 蚊の 刺す奴と、 ハタリスだ、

5-016

ii-nən ɲii bisənni?”
それでおまえは 誰 なんだ？」

5-017

“bii, mɒnnɒkaan korɪtɔɣ-də bisəm.”
「私は、 ウサギの 耳長 だ。」

5-018

“əmnə əwəski, əməttu biddəwur, ənikənnun dolčɪkačɟilrə
「来いよ、 こっちへ、 一緒に 暮らそう、 ただ 盗み聞きするな、

5-019

ukčəənriwun.” ñaan biɟilritən dignɪɟur.
私たちが話しているのを。」 さあ 暮らし始めた、 四匹で。

5-020

tadək ŋaan ɔlɪɕaan ŋooŋɕirɪɟi kuŋkərin.
それから さらに キツネが 走って来て 戸を叩いた。

5-021

“ŋii nəəkulə bisni?”
「誰が 倉に 住んでいるのか？」

5-022

“buu bisu, diləkən dirəŋə, kɔlɪɕaan kɪkalan, obaka
「私たち だ、 ハエの ブンブンと、 蚊の 刺す奴と、 ハタリスの

5-023

keəkələn, mɔnnəkən koratagdi, ii-nən ŋii bisənni?”
キーキーと、 ウサギの 耳長だ、 それでおまえは 誰 なんだ？」

5-024

“bii, ɔlɪɕaan ɡɔlara bisəm.”
「私は、 キツネの 赤黄 だ。」

5-025

“əmni əwəski, ɔməttu biddəwur, ənikəənnun ɔləkɕijilrə
「来いよ、 こっちへ、 一緒に 暮らそう、 ただ 騙さないでくれ、

5-026

munu.” ŋaan biɟilritən tɔŋŋjɔr.
私たちを。」 さあ 暮らし始めた、 五匹で。

5-027

timin ŋaan ŋəɔluki əmniɟi kuŋkərin.
次の日 さあ オオカミが 来て 戸を叩いた。

5-028

“ŋii nəəkulə biddən?”
「誰が 倉に 暮らしているのか？」

5-029

“buu bisu, diləkən dirəŋə, kɔlɪɕaan kɪkamɟu, obaka,
「私たち だ、 ハエの ブンブンと、 蚊の 刺す奴と、 ハタリスと、

5-030

mɔnnəkən koritəgdə, ɔlɪɕaan ɡɔlara, ii-nən ŋii bisənni?”
ウサギの 耳長と、 キツネの 赤黄と、 それでおまえは 誰 なんだ？」

5-031

“bii ŋəɔluki, iitəgdə bisəm.”
「私は オオカミの 咬む奴 だ。」

5-032

“əmnə əwəski, ɔməttu biddəwur, ənikəənnun munu muddə.
「来いよ、 こっちへ、 一緒に 暮らそう、 ただ 私たちを 咬むな。」

5-033

ŋaan noŋartan ŋuŋən ooditan, ɔməttu biɟilritən.
さあ 彼らは 六匹に なった、 一緒に 暮らし始めた。

5-034

əmnəkən ŋaan taraw nəəkuw oonakɪ bakɟɪɟi kuŋkəjilrin,
ある時 さあ その 倉を クズリが 見つけて 戸を叩き始めた、

5-035

“ηii nækulə bisni?” “buu bisu,”
「誰が 倉に いるのか？」 「私たち だ、

5-036

diləkən dirəŋə, kəlīčaan kıkamŋə, obaka keekəlin,
ハエの ブンブンと、 蚊の 刺す奴と、 ハタリスの キーキーと、

5-037

mōnnōkan koritəgdə, ōlīčaan gōlara, ii-nən ηii bisənni?
ウサギの 耳長と、 キツネの 赤黄と、 それでおまえは 誰 なんだ？

5-038

ŋəəluki-də iitəgdə. ii ηii bisənni?” “oon ηii
オオカミの 咬む奴もだ。おまえは 誰 なんだ？」 「どういうわけで、 誰かって、

5-039

bijim? bii-kkə oonakı bisəm. jaaw ədu nəkəjis?
オレが!? オレは クズリ だ。 何を ここで おまえらはするつもりなんだ？

5-040

min ərək biləku. min ələ j̄uodanv bisni.
私のだ、 これは、 私の家だ。 私のだ、 ここに、 私の家 なのだ。

5-041

oon ərək-kə oromŋal j̄uodantan. ηii gəənin?
どうして これが トナカイ牧民の 家だろうか。 誰が 言ったんだ？

5-042

ηii tala tēərən? tiək oīčijim, taraw əəidu
誰が そこで 話しているんだ？ 今 登って行くぞ、 そいつを、 皆、

5-043

ırrarıwüşın ŋoolokaanjim.”
息しているのを オレがだめにしてやる。」

5-044

tačıman ōičisčijilrəkən jaamı~ duələn iışni.
そんな風に そいつが登り始めると、 何か 物音が 聞こえて来た。

5-045

jaamı tarak oromŋur, tuğunimdiwur ojalbər
どうして あの トナカイ牧民たちは、 冬用の自分らの 服などを

5-046

gaǵılla. oonakı ŋaan, doldorjı taraw, ŋoonj̄jaan̄n̄n.
持って来ていただろうか。 クズリは さあ 聞いて、 それを、 逃げ出して行った。

5-047

ŋaan tala biddur j̄ilgəŋkəl məərker urəǵənnitən
さあ そこに 暮らしていた 獣たちは 自分たちも 去って行ったのだった、

5-048

j̄uotkiwər. dəgullitən diləkən, kəlīčaan, obaka-da urrin məən
自分らの家々へ。 飛び立った、 ハエと、 蚊と、 ハタリスも 去った、 自分の

5-049

j̄olakaaytakı, mōnnōkaan buyaskı ərrin, ōlīčaan, kabalaa...,
岩場の巣へ、 ウサギは 森へ 去った、 キツネと、

5-050

ŋəɭukigli ŋaan ərɪtən, ʃu..., buɣaskɪ. ŋaan tačɪn
オオカミも また 去って行った、 森へ。 さあ そんな風に

5-051

tar oromɲər oilbər čəɭəwən bakɪtən.
そうして トナカイ牧民たちは 自分らの服を 全て 見つけたのだ。

3.6. 「一代記」

2014/08/15 Esso にて、Egorova, Rimma Maksimovna 氏より録音

6-001

bii-si bisəm, Rimma Maksimovna Egorova, bii bakɪrɪwɔ
私は ああだ、 リンマ マクシーモヴナ エゴロヴァだ、 私は 生まれた、

6-002

tɔwajaandɔ. min ɐntɪlbu bisitən oročɪl. akmɔ,
トゥワヤーン村で。 私の 母さんたちは ああだった、 エウエンだ。 私の父は

6-003

čəɭəlɪn gurgəwčirin biwəttən-də pɪdsedatel' kolkhoza, sel'sovetla-da
いたるところで 働いた、 あれだった、 コルホーズの議長、 村ソヴィエトでも

6-004

gurgəwčirin. a tak noŋan aɟawɪn, ɐri~ɣər buɪli biɖəɟ,
働いた。 一方で あんな風に 彼は 好きだった、 いつも 森に いるのが。

6-005

ollaw bæičijəttən, orəm-da kəsčɪnəwəttən, buɟusijəttən-də
魚を 捕っていた、 トナカイも 放牧しに行っていた、 狩りをしていた、

6-006

ʃɪlɟəŋkəw. noŋan, ɐɾəɟ~ɣər, ʃuɣɔnɪɖɔ, kimməəttən ŋaan, ollaw
獣を。 彼は、 いつも 夏には 支度をしていた、 やはり、 魚を

6-007

bæičɪnəwəttən tulijəttu. tadɔ~ baɟɪlaardɔ-da mɪallɪɟɪ, noŋan
捕りに行っていた、 漁場に。 そこで 早朝に 起きると、 彼は

6-008

kateɐpɔ, tulɭəəttən, tala ollaw ɐpkəwəttən
カテープ（簾?）を、 仕掛けに行っていた、 そこに 魚を 捕えていた、

6-009

ooɟaw. ŋaan ɐkmɪ-si, baɟɪkar-təttə, mɪalloottɔ ɐstən ɔkləɟʃoottɔ
たくさんを。 また 私の母も、 朝にやはり、 私たちは起きた、 寝ていなかった、

6-010

gorɔ, mɪalɪɟɔɾ urreəttu okaattakɪ tadɔ
長いことなんか、 起きると 私たちは出掛けた、 川へ、 そこで

6-011

kaamɟijʃoottan olraw. ɡee~ki-si olra bisɪn, ooɟa
干物用に薄く切っていた、 魚を。 あらゆる 魚が いた、 たくさん、

6-012

tarakam. ŋaan kaamɟiwaəttɔ~ nokkoottɔ uɲnə,
その頃は。 そうして 薄く切っていた、 掛けて干していた、 あれに、

6-013

uudaandola, ñaan, ñaan tadu amɲiɕjjoottu əri~ɣər. buu,
干し台に、 さらに、 さらに そこで 燻製にしていた、 いつも。 私たちは、

6-014

kɔŋal bimi, moow ɕakajjjoottu, oraat amɲiɕaandola nədəwər.
子供 だったので、 薪を 集めたり、 草を 燻製台に 置くのだ。

6-015

ñaan taraw, kaamgiwaatta əəidu, ñaan, uŋə..., kaam
それから それを、 薄く切っていた、 全部、 さらに あれだ、 干物に

6-016

oowaattun dallaj~ tar, ñaan akmu unut
なったのだった、 おいしいんだよ、 ほうら。 また 父さんは ほれ、

6-017

maawaattan kobalaam, ñaan. ələəɕɕəəttu tar, imsəwən, ñaan
獲っていた、 クマを、 さらに。 煮て採った、 ほれ、 その油を、 それから

6-018

nəkčiwə..., nəkčiwəəttə. uŋə..., ələktulə, jaak-utta-si, ələk
保存していた。 あれだ、 袋に、 どんなんだったか、 袋が

6-019

biwəəttən iistuk, ñaan tala nəkčiwəəttə tala.
あった、 毛皮製の、 ほれ そこに 保存していたものだった、 そこに。

6-020

ñaan tugunidu~ jəbuɲjjoəttu, taraw kaamu əətənun, aadun-da
ほら 冬に 食べていたんだ、 その 干物を 油と、 時々

6-021

noŋan, uŋŋəəttən, buyuski urreəttən ñaan, orom-da maawaattan,
そいつは、 ああしていた、 森へ 出かけたら ほれ、 トナカイも 獲っていた、

6-022

bujum əmuwəəttən ñaan ɕələɲur, oroɕil
野生トナカイを 運んで来た、 ほれ 皆、 エウエンたちは

6-023

gaɲiwaatta, ñaan boritnawaatta, ɕələŋjədun,
もらいに行くのだった、 ほら 分配しに行くものだった、 皆に、

6-024

əstən tiək, nəkrə oon-ka nəkkəəttə, məərəkəər-təkən
彼らは、 今、 しなかった、 あんな風に しているようには、 自分たちだけが

6-025

jəbəɲjjoəttə. tarakam ɕəə~lədun boriɕɕootta.
食べたりするようになどは。 その頃は 全員に 分配するものだった。

6-026

atikaa~rdu buuwaatta. ŋii-kə turkuttən məəŋkəən
おじいさんたちに あげるものだった。 誰かと言えば、 できない、 自分では

6-027

uŋə bujusŋə. ñaan taɕm bii, kak, ərək uzhe
あれが、 狩りすることが。 ほうれ あんな風に 私が、 何だ、 これは もう

6-028

essola əmniwun ŋaan-əsi, uŋən, ərək Tonja akanni.
エッソに 私たちが来てから、 ほれ あの、 これは トーニヤの 父親だ。

6-029

mundu əmuwkaanin, uŋkakaam, bəədəl-u, dıl-ə, gəənin,
私たちの所に 送って来た、 何かしら、 足だか、 頭だか、 言った、

6-030

ərək-əsi, tiitə-l nəkkəəttə əčin ŋii-kkə turkəttən
ほらこれは、 昔は していたのだ、 こんな風に、 誰でも できなければ、

6-031

bujusŋə məŋkəən, ŋaan tačin-da mundu borıwaattan,
狩りすることが、 自分では、 ほら あんな風に 私たちに 彼らは分け与えていた、

6-032

jaakakaam-da. əkmü-si, uŋə, əri-gər akmənən boddooččoottan
何かしらを、だ。 私の母は、 あれだ、 いつも 私の父に つき随って行っていた、

6-033

tar, builə tar, rybalkadə noŋan tadə biŋŋəəttən,
あんな風に 森を あんな風に、 魚捕りに 彼女は そこに いたのだった、

6-034

a tugunidu, noŋan gee~kiw aŋanaŋŋoottan
一方 冬には、 彼女は 何だって 縫っていたものだ、

6-035

iistuk, uŋtaw noodač nišamiw aŋannoottan.
毛皮から、 ブーツを 美しく ビーズのついたブーツを 縫っていた。

6-036

akmü-sı čee~ləŋi om bisin, iistuk, nəŋdəkəən, uŋtan-da
私の父には あらゆる 着物が あった、 毛皮製の。 毛皮の外套に、 ブーツも

6-037

geeki bisin. ərkən-də konaarta, iistuk bisin.
あらゆるものが あった。 ズボンも、 コナイタ (という)、 毛皮製 だった。

6-038

ŋaan noŋan tačin tətəəttən bugəski urmi,
ほら 彼は そんな風に 着ていた、 森へ 行く時は、

6-039

noodač ŋaamuč, ədəŋ iŋəmnə. ŋundasnoottan buyəski,
美しく、 暖かく、 凍えないように。 犬櫓で行っていた、 森へ、

6-040

moow-da, noŋan mooləŋŋoottan, tar əmuwəəttən.
薪も、 彼は 薪も集めていた、 ほれ 持って来た。

6-041

ŋimčaarŋi tar irowaattan. towajandə-sı bimi,
犬櫓で それは 運んで来た。 トウワヤーンに 暮らしていた時には、

6-042

tarakam aačča geeki mashshina bisin.
その頃は なかった、 いかなる 車が あろうか。

6-043

čəələjur oročil, ɲɪndawaatta. essotki-da təyəski~
皆 エウエンたちは、犬橇で行くものだった。エツソへも 遠く

6-044

ɲɪndawaatta, ɪlam-da inəɲu, torkidaajfootta, urəkčən
犬橇で行っていた、三 日間も（時には）犬橇で行っていた、山の

6-045

doolin. tiək-əllə, ootarən čəələlin binni. tiək gee~kič snegakhodač
中を。今は、道が いたるところに ある。今 いろんな 雪上車などで

6-046

okhotnikal-da badəwaaččootta, əstən ɲɪndawaatta, mərəndaajfootta.
猟師たちも 乗って行き来している、彼らは 犬橇で行かない、馬で行き来している。

6-047

jəgənidə kəŋalba-da essotki, oojačɪ~ mərənač gajjfootta,
夏に 子供たちを エツソへ、たくさんの 馬で 運んで行った、

6-048

təwajaɲič. okaatu-da dawəkawaatta mərənač. ɲaan-asɪ,
トゥワヤーンから。川も 渡らせていた、馬で。 ほうれ、

6-049

taɲnadatan bolonidə, tačɪn-tatta mərənač uruwəəttə.
彼らが学ぶために、秋に、 あんな風に 馬で 行き来していた。

6-050

ɲaan-asɪ, əwəsiki-gəl əmnijur, shkəlawən tozhe essola bisin.
ほら、 ここへ やって来て、私たちの学校 も エツソに あった。

6-051

ɲaan-asɪ buu bystorəjdək, mashshinač uzhe əməjjeəttu.
ほら、 私たちは ブイストルイ村から、車で もう 来たものだった。

6-052

əsu ɲɪndawaatta. tiək-kələsi, oročil aa~čča mərəltan-da
犬橇で来はしない、今や、 エウエンたちは 持たない、彼らの馬も、

6-053

oodnɪ. abul. ɲɪmaltan-da abulkaja. tiək-əsi,
そうなった。 少なくなった。 彼らの犬も 少なくなった。 今や、

6-054

ɲɪndawaatta, uɲ-təkən, prazdnik-takan bisikən beringija.
犬橇で行くのは、 あれだけだ、 お祭りに なったなら、 ベーリンギヤの。

6-055

tar severtəki tar, ɪsčimaatmɪ, ɲɪndawaatta tar.
ほれ 北へ ああして、 競走して、 犬橇で行くのだ、 ああして。

6-056

ɲaan tar, oddam-əsɪ.
さあ ほら、 私はこれで終える。

3.7. 「タブーについて その1」

2014/08/16 Esso にて、Egorova, Rimma Maksimovna 氏より録音

7-001

kučəkəən bimi bii jurtagič ŋuuriwu, ələə~kəsə-si,
小さかった 時に 私は ユルタから 出て来たが、 やっと、

7-002

girkawaaččilliwu aič. ŋaan-usi ittiwu, tœrlə gee~kɪ
歩き始めたばかりだった、 よく。 ほれ 私は見た、 大地に さまざまな

7-003

kəŋkəwki girkawačiddin. ŋaan bii ɪrkaam gaʝʊssiʝi, təʝriwu,
甲虫が 歩き回っていた。 ほうれ 私は ナイフを 取って来て、 座った、

7-004

tado ŋaan, čikikačʝilliwu taraw, kəŋkəwkiɪlə dɔlkalič.
そこで ほれ、 切り始めた、 それを、 虫たちを、 半分に。

7-005

ŋaan əkmu ŋuurin jurtagič, buu tarakam jurtadu
ほうれ 母さんが 出て来た、 ユルタから、 私たちは その頃 ユルタに

7-006

bisiwun. ŋaan gœn, ʝaasčʝimni?, əstən tačimɔr
暮らしていた。 さあ 言う、 「何しようとしてるの、 そんな風に

7-007

nəkkœtə, jaado kəŋkəwkiw miinəkəčinni?
するものじゃないわ、 どうして 虫を 切っているの？

7-008

ʊklaasnukus tawur, čələʝur əmjir, ŋaan gee~kɪlʊš
あなたが寝ている時に ほうら 全員で やって来て、 ほうら あなたのあらゆる

7-009

takakoliš iʝir oŋatliš-ta, koratluš-ta čələləlin
穴を通して、 入って来るわよ、 あなたの鼻から 耳から 全部を通して

7-010

iʝir, ŋaan urəəš doolm əəidu ɪltačaamus
入って来る、 それから あなたのお腹の 中で、 全部 あなたの腸を

7-011

ʝibʝir.” ŋaan bii əŋulliwu taraw, uləriwu
食べてしまうわよ。」 さあ 私は びっくりした、 それを、 抛り出した、

7-012

ɪrkami. ŋaan ookta-tuč əčiwi, tačm, kəŋkəwkiw
自分のナイフを。 さあ いつだって 私はもう あんな風に 虫を

7-013

geekiɪw, ɔtoʝaar. tačm-usi, əstən
どんなのであっても、 ひどいことをしなくなった。 こんな風に、 彼らは

7-014

nəəʝiʝœtə tiitə~l. tačm ʊŋɔləkawaattu əmnəkən
叱りつけたりしなかった、 昔は。 あんな風に おどかした、 ある時に

7-015

geəwəəttə kuŋa ʊnodaan. tačm tar ŋaan
 言ったのだ、 子供が 理解するようにと。 あんな風に そうして さあ

7-016

ʊnəwaattə. əsitu-də tačm geeki doldaŋŋoottə, əsu
 私たちは理解した。 しない、 ああして 全て 聞き覚えたし、 私たちは

7-017

ʊtoŋaŋŋoottə. ŋaan bii tarakam-ta ʊnoriwə, jaaw-da
 悪ふざけしなかった。 さあ 私は その時になって 理解した、 何でも

7-018

ədəj, ʃilgəŋkəw-də geekiw, kəŋkəəwkiw-də
 するべきじゃない、 生き物を あらゆるものを、 虫も

7-019

ədəj tiiməŋukru. biddəətan tačm-ta, mut-kəčm.
 傷つけるべきではないと。 生かせておくと、 そのままに、 私たちと同じように。

3.8. 「タブーについて その2」

2014/08/16 Esso にて、Egorova, Rimma Maksimovna 氏より録音

8-001

oročl gee~kɨŋutən tiitə~l nipkəritən bisin.
 エウエンたちは そのあらゆることに 以前は 禁忌を持っていた のだった。

8-002

təəŋŋəkič geəwəəttə tačm, ədəətan geekildar.
 「トーンガキッチ⁽¹⁾と 言っていた、 そんな風に しないように、 何でも。

8-003

jurtala-sɪ biwəəttən uŋə, məəŋəl.
 ユルタに 暮らしていた、 あれ、 「ムーグル」(干物掛け (の横木))。

8-004

ŋaan-ʊsɪ taraw geəwəəttə, “əʃillə tačm-nən
 ほうら それについて 言っていた、 「決して あんな風に

8-005

əpkuyrəəkillə”. bii-si, kučukəən bimi, jaač
 手当たり次第につかまったりしてはいけない」と。 私は 小さくて、 どうして

8-006

korotla bisiwu. ŋaan geəwəəttə, “əʃi tadə-wur
 聴く耳を持って いただろうか。 ほうら 言っていた、 「決して そこに

8-007

nokotkɪl, tawar, əgdi oodɨʃɪ turkuʃinni
 ぶら下がるな、 そこに、 大きく なってから できなくなるよ、

8-008

kuŋaŋulbuŋa”. ŋaan bii əsəm dolčɪwaattə~ əsəmi, bəədəli,
 子供を産むことが、」と。 ほうら 私は 聞いていなかった、 まさに、 自分の足を

8-009

əčm uŋniʃi ugərriʃi, tačm ŋaalɨ, əsikətan itta,
 こんな風に こうして、 持ち上げて、 こんな風に 手で、 彼らが見ていないと、

8-010

nokučijjootum tala mæŋældulə. ŋaan aijit-ta tačɪn
ぶら下がっていたものだった、 そこに 干物掛けに。 ほうら 本当に あのように

8-011

geənčə-γčittən bisin, bii turkuttiwu mæŋkæən, koŋaŋulbɪ
言っていたとおり だった、 私は できなかった、 自分が、 子供を

8-012

bakodaaj. æidu operaasjaritan juuriwaanta, turkuttaku,
産むことが。 いつも 手術したが、 なぜなら 私ができなかったので、

8-013

koŋaŋulbuŋa. tačɪn niŋiwriwu, aa
子を産むことが。 そんな風に 私は魔法を掛けられてしまった、 ああ、

8-014

əmi dolčur.
言うことを聞かなかったの。

(1) 「タブー」の意。

3.9. 「火についてのタブー」

2014/08/16 Esso にて、Egorova, Rimma Maksimovna 氏より録音

9-001

toɣʊ-kka-da geəwættə~ əjillə geekič toɣʊ nəkədgurækilla.
火についても 言っていたものだ、 決して あれこれ 火に してはいけないと。

9-002

ərii~γər, awʊski-da əmmi, untətki təertəki, ili boɣaski-da-γər
いつも どこへ やって来ても、 あれへ 地方へ、 もしくは 森へでも

9-003

urmi, toɣla jaakakaam-da nəəwættə.
行けば、 焚火に 何かを 置くものだ。

9-004

geəwættə~, talɪ, ŋoomačaal-da jibdəətən.
言っていた、 そこで、 亡くなった人たちが 食べるようになるのだと。

9-005

ŋaan-ʊsɪ tačɪn, ɐmən, asaatkan muurə bičə, noŋan,
ほうら あんな風に、 ある一人の 女の子、 ムーラという 故人は、 彼女は、

9-006

laawʊčaŋič əmnitən, komsomol'sul čakabʊtnaasitan
ラオチャーン村から やって来た、 共産青年同盟員たちが 集会しに来ていた、

9-007

essootki. ŋaan bol'nissaa-kka ilə tiək bisni,
エッソ村へ。 ほら 病院が あそこに 今 ある、

9-008

tala~ aačča jaak-ta jʊʊ bisin, bujun bisin.
あそこに、 無かったんだ、 いかなる 家も、 ああだった、 森 だったのだ。

9-009

tado əlbəkəlbur tullijur, ələtəmələčirijur jiptitən ŋaan
そこに 自分らのテントを 張って、 急いで食事の支度をして、 食べた、 そして

9-010

urritən tantsənaaritən selotki jaalnı.
彼らは出掛けた、 ダンスしに行った、 村へ、 彼女の仲間たちは。

9-011

ŋaan noŋan-əsi dezhurnıj bisin.
さあ 彼女は 見張りの当番 だった。

9-012

ŋaan gəənitən, urritən, tarak muurə bičə,
それで 彼らは話した、 出かけた、 その ムーラという 故人は、

9-013

əəidu tar jibəččəəwitən ubiraajiddın, ilkatıddın alıkulba.
全部 その 彼らが食べたのを 片付けていた時に、 洗っていた時に、 食器を、

9-014

ŋaan gəənni, ičiddən jaamı, toɣdök tar-a, iču..., julla,
ほうら 言った、 見たと、 何か、 焚火から それは、 まず、

9-015

oon-kana, nəndəkə ičuusnin, ŋaan-ası toɣ doodökön bəi
何と言ったっけ、 毛皮製の上着が 現れた、 さらに 火の 中から 人が

9-016

ŋuurin, ətikəkəkəən. ŋaan gəən, “jaaw..., jaamı tačın
出て来た、 おじいさんだ。 さあ 言う、 「どうして そんな風に

9-017

nəkrışən məərkəər-tikən jiptijur, munu-də omjarişən.
おまえらはしたのか、 自分らだけ 食べて、 私たちのことを 忘れた。

9-018

əčilışən jaangakön-da buurə.”
おまえたちは 何も くれなかった。」

9-019

ŋaan taraw ollıjı muurə tikrin ıkotıč.
さあ それに 驚いて、 ムーラは 倒れた、 その場で。

9-020

ŋaan-ısı jaalnı əmnitən jaamı ərək Marija,
それから 仲間たちが 戻って来た、 どうして これは マリアは、

9-021

oon-ka ŋuɕıdɕ gəəwəəttə, bez soznanija dəsčiddən.
何だっけ、 ロシア語で 言うところの、 意識を失って 横たわっていた。

9-022

ŋaan əə~ tačın butəənniw ururitən gorodtakı, ələ-si
さあ そんな風に 病気に倒れたのを 運んだ、 街へ、 ここでも

9-023

turkuttitin bəɣdəətnə. ŋaan noŋan unurin taraw.
できなかった、 治すことは。 さあ 彼女が 病気になった、 それを。

9-024

tarak gəenni, niŋ..., oon-kana, arısay tarak oodm.
彼女は 言った、 何だっけ、 幽霊だわ、 あれは、 現れた。

9-025

arısay əmniji tar noŋmaan tačm tar orkaattm, Marija
幽霊が 出て来て、 彼女を あんな風に してしまった、 マリアは

9-026

butənuləkən. ŋaan taraw gəewəəttu, əjilla gee-kıč toŋu
病気になった。 さあ それについて 人々は言う、 決して 如何様にも 火を

9-027

uŋgərəkilla. əriiŋər, uləəyərəlla, toyla jaakakaam-da.
ああしろと。 常に、 投げ入れなければならない。 火に 何かを。

9-028

mut-əsi uŋəl, oročil, teeranu bisup, oon-kana,
私たちは あれだ、 エウエンなのだ、 これまで 暮らしてきた、 何だっけ、

9-029

tačm itontı binni, əri-ŋər uŋgərəlla. tar-a,
あのような 決まりが ある、 いつも ああしろと。 あのように、

9-030

buŋinun, aič biyərəlla bəyila, mutu-si tərərəŋət
自然と 仲良く 暮らせ、 森で、 私たちを、 私たちの大地は

9-031

teeranu, taroočmni, geeki binni, oročil joončir,
これまで、 あのようなだ、 さまざままで あり得る、 エウエンたちは 思い起こす、

9-032

əriŋər-da aaritan chto, jaak mut əməkkər bisup
いつも 知っていた、 何で 私たちは 私たちだけで 生きていようか、

9-033

tərlə gee-kı bisni, əči, əči iččuri bəj jaašuldən.
大地には 様々なものが いる、 見えないものが、 人間の 目には。

3.10. 「魚について（その漁や料理について）」

2014/08/17 Esso にて、Egorova, Rimma Maksimovna 氏より録音

10-001

ollaw-sı bəičijjəəttu baldonni, irəlləkən. okaat, bukus manorakan,
魚を 捕るのを 始める、 雪が融けると。 川は、 氷が なくなると、

10-002

uŋəjjəəttu, činučič əpkujjəəttu əikəčəm.
ああするものだ、 釣りて 捕まえる、 イワナを、

10-003

geekiw, əikəčəən-kə biwəəttən.
さまざまな イワナが いる。

10-004

ılkan uŋə əikəčəən, potom uŋə, biwəəttən-ə, khariusu
本当の あれ、 イワナ⁽¹⁾、それから あれが、 いる、 カワヒメマス⁽²⁾を

10-005

əpkuwəttə, oon-kana, kak zhe kunzha nazuvaetsja eto, zabyła
捕まえる。 何だっけ、 どうだか アメマス を 呼んでいた、 あれ、 忘れた、

10-006

kundzha..., əpkujjəttə, činučič. əntəkəjə-si olla əmnəkən, aduluč
アメマスは⁽³⁾... 捕る、 釣竿で。 たくさんの 魚が 遡って来たなら、 網で

10-007

əpkuwəttə keetaw, uŋə, eewweču julla eewweču
捕るものだ、 サケを、 あれ、 キングサーモン⁽⁴⁾を、 最初に キングサーモンを

10-008

əpkuwəttə, potom čoomgaw, ŋaarkačam,
捕るものだ、 それから カムチャッカサーモンを⁽⁵⁾、 ベニザケを⁽⁶⁾、

10-009

əəidu, əpkujjəttə aduluč. akmō-nusi əpkuwəttən,
全部、 捕るものだ、 網で。 父さんは 捕まえていた、

10-010

tiitəl uŋəč, kateepuč. moodok kateepo oowaatta.
あの頃は あれで、 築で。 木で 築を 作っていた。

10-011

ŋaan-usi ollow-usi taraw olgiččootta, kaam bidəən,
それから 魚を、 それを 干していた、 干物に なるように、

10-012

takrawaatta-da, bochkala, ŋaan-usi, akmō-nusi, uŋŋəttən,
塩漬けにしていた、 樽に、 それから 父さんは ああしていた、

10-013

toyla, jəbdəkun, iričijjəttən, moola uikuniŋi, tačm
火に、 私たちが食べるようにと、 炙っていた、 串に 刺して、 そんな風に

10-014

tar dalluč. jəbuŋjəttu-si buu unət uŋə, bukaačv. ollaw,
それは 美味しい。 食べていた、 私たちは さらに あれ、 頭を。 魚を、

10-015

tariŋit tar, əpkuniŋur, čikiwaatta, gilmaan jəbbeettu
その時から ほうら、 捕ってから、 頭を切り落とすのだ、 背肉を 食べていた、

10-016

taraw, dallu~ biwəttən. tarak uŋə, gorbəha, ŋəriwən,
それを、 美味しい のだった。 それは あれ、 カラフトマス⁽⁷⁾の 背肉を

10-017

jəbəjjəttu. takrawaattu kolaliwan. tiitəl eshshe,
食べていた。 塩漬けにしていた、 イクラを。 あの頃は さらに、

10-018

takrawaatta kolaliw kallatač, əstən atalloottə, uŋŋen,
塩漬けにしていた、 イクラを 丸ごとで、 彼らは取らなかった、 あれを、

10-019

oŋjon, ŋaan takrawaattu. uŋnə jaaladaan, bankila, eekələ.
表面の薄膜を、 それで 塩していた。 あれに、 何かへ、 瓶へか、 鍋へか。

10-020

ñaan, tuyunidu miinawættu taraw jəbmi, uŋ...,
それから、 冬には 切っていた、 それを 食べると、

10-021

kolbasaaw nəkri-yčín jəbbættu, dalluč.
ソーセージを するみたいに 食べていた、 美味しい。

10-022

unətə-si, uŋŋættu, əkmun, olgittijɪ, olgičijjoottun-u
さらに ああしていた、 私たちの母さんは 干してから、 干していたが、

10-023

olluw ələččəw, dallu~ biwættən ultu gərbən. taraw
魚を 煮たのを、 美味しい のだった、 「ウルティ」という 名だ。 それを

10-024

jəbbættu. tuyunidu, uksič uŋkəriŋur, ñaan ətəw-də talaa
食べていた。 冬に カラフトマス を 埋めて、 それから 脂を そこに

10-025

nəwættu. ñaan dallu uməkič biwættən.
入れる。 やはり 美味しいのは たいへんに そうだった。

10-026

unət jaaw-kana jəbbættu, eshshe, kisluj, uŋə, dilo.
さらに 何を 食べていたっけな、 さらに、 発酵魚を、 あれ、 頭を⁽⁸⁾。

10-027

nəwættə tərɬə, oraatla. kolalič-ta uŋkəwættə
埋めて置くものだった、 地面に、 草に。 イクラで 覆う、

10-028

oigul ñaan uŋŋættən əi~, tarak, kisluj oowaattan.
その上を、 さらに ああする、 それは 酸っぱく なるのだ。

10-029

ñaan jəbbætu dallu~ biwættən.
ほうら 食べる、 おいしい のだ。

10-030

uŋŋættu eshshe, əkmən maawaattən-uɪ kobalaan ñaan uŋən,
ああしていた、 さらに 父さんは 獲っていた、 クマの ほら あれ (脂)、

10-031

ollan dillon tar, čaaričijjoottə~ uŋnun tar,
魚の 頭を あれ、 油で炒める、 あれと、

10-032

ətəɬə, dalluč, bəinunni tarak olla.
油に、 美味しい、 身と一緒にでも、 それは、 魚は。

10-033

ŋɪmɬdɔ-sɪ, tačɪn-tutta oojaw~ kaamɔ nəkkættə jəbdəttən
犬たちにも そんな風に たくさん 干し魚を 作った、 彼らが食べるようにと、

10-034

tuyunidu, tərɬə-də ɪmawaattan əkmɔ-nu, oojaw əpkəniji~
冬に、 外に 雪が降ったなら、 父さんは たくさん 捕って来て、

10-035

nəəj̥eettən tala ńaan kɯsla oowaattan.
 埋めた、 そこに、 ほうれ 酸っぱく なるのだ。

10-036

geəwəetta kɯsla, ńoočɪdɪ-gu tarak bisin.
 言っていた、 「キースラ」と、 ロシア語でなんだか、 それは そうだった。

10-037

ńaan ɲɪmɔldo tačɪn uliččəetta. ńaan tar.
 ほうれ 犬たちに そんな風に 餌を与えていた。 さあ そんなだ。

- (1) オシヨロコマ、学名：*Salvelinus malma*。
- (2) 露名：kharius, 学名：*Thymallus*。
- (3) dɔkča と言うと後で思い出した。dɔk- は「描く」、-ča は被動形動詞接辞で、「描かれたもの」の意だが、これはこの魚に斑模様があることによる。学名：*Salvelinus leucomaenis leucomaenis*。
- (4) 露名：chavycha, 学名：*Oncorhynchus tshawytscha*。
- (5) 露名：Sjomga kamchatskaja, 学名：*Salmo penshinensis*。
- (6) 露名：nerka, 学名：*Oncorhynchus nerka*。
- (7) 露名：gorbusha, 学名：*Oncorhynchus gorbusha*。
- (8) 魚の頭の発酵したものを、moniča と言ったという。

3.11. 「植物について」

2014/08/18 Esso にて、Egorova, Rimma Maksimovna 氏より録音

11-001

oročɪl geekɪl ɪsʊrɪw tiitə~l, məərdulə iiniriwər-ə
 エウエンたちは さまざまな 植物を 以前は、 自分たちの 暮らして行くのに

11-002

uŋŋəetta, təwtəw geekɪw čakuttoottu, oraattu čakuččooottu,
 ああしていた、 ベリーを いろんなのを 集めていた、 草を 集めていた、

11-003

məərdur, ʃəbdəəwur-də, bəgdəəttəwər. təwtə oodakun čakačij̥joottu,
 自分らに、 食べるために、 薬とするために。 ベリーが なったら 集めていた、

11-004

gee~kɪw təwtəw, gii~tu, utəmtəw, nəktəukiw,
 いろんな種類の ベリーを、 クロマメノキ、 スイカズラ、 ナナカマド、

11-005

nəktəukiw, čəələwən taraw ʃəbbəetta.
 ナナカマド、 全部 それらを 食べていた。

11-006

ələəččəetta, tačɪn-da əi ʃəbbəetta ɪkɔtɪč, a,
 煮ていた、 あんな風にも 食べていた、 そのままで、

11-007

tiitəl-kə čaakar aačča biwəəttən,
 あの頃は 砂糖が 無かった のだ、

11-008

tačín-ta ĵəbbəəttu, nəəkčiwəəttu, ŋəmukaattj̄or.
あんな風に 食べていた、 保存していた、 凍らせて。

11-009

ollənon-da ĵəbbəəttu giitu, utəmtəw. ələəččənon
魚と一緒に 食べていた、 クロマメノキ、 スイカズラを。 煮た

11-010

ollənon ammootta, ŋaan dalla-da biwəəttən ĵəbəwmi.
魚と 混ぜた、 ほうら 美味しい のだ、 食べると。

11-011

uŋu-də oraato-da geekiw-ka tar ĵəbəj̄əəttu.
あれも、 草をも さまざまなのを それは 食べていた。

11-012

imanna čəomnakan əŋut isowaattan, ŋaan əŋutu,
雪が 無くなると、 ラムソンが 生えてくる、 さあ ラムソンを

11-013

čakrij̄or taraw, olgiččəəttu, takrawaatta.
集めて それを、 干していた、 塩漬けにしていた。

11-014

tačín-da ĵəbbəəttu, giyrij̄ur.
そんな風に 食べていた、 細かく切ってから。

11-015

unət-əsi, oraat ŋiŋtəwan ĵəbbəəttu. iwwičaan, iwwičaan,
さらに、 草の 根を 食べていた。 ヤナギラン、 ヤナギラン、

11-016

taraw-da ĵəbbəəttu, kilkerij̄ur ojjoon.
それも 食べていた、 剥してから、 その上皮を。

11-017

tačín-da dalla biwəəttən, ələkəš-ka išud-dəkən.
そんな風なもの 美味しい のだ、 やっと 生えてきたばかりなのを。

11-018

uŋu-də ĵəbbəəttu, oon-kana gərbən, əšni, ĵəbbəəttu
あれも 食べていた、 何だっけ 名前は、 いや、 食べていた、

11-019

tukəru, kučəkəən bisəkən, tačín tar..., ičukənitən
「トゥクル」⁽¹⁾を、 小さかった時に（私が）、 あんな風に 見せてくれた、

11-020

mindu, tukəru uŋŋəəttu, ullij̄ur taraw awwoəttu.
私に、 トウクルを ああしていた、 掘ってから それを 洗っていた。

11-021

tiitəl gəəwəəttu, ələəččəəttu-da ullənun.
昔は ああ言っていた、 煮ていた、 肉と一緒に。

11-022

 buu-ŋəl tačín-ta, nuorij̄or əi ĵəbbəəttu.
(一方今の) 私たちは あんな風に 引き抜いて 食べている、

11-023

dallu-da biwættən, aač ələəččələ. bəgdəəččəettu uŋət-tə,
 美味しい のだ、 煮ないでも。 薬にもしていた、 あれで、

11-024

oraatuč tiitə~l, gee~kɪ bəγ-si aačča bisin.
 草で、 以前は いかなる 薬も 無かった。

11-025

ñaan, dɪlɔr-da ənsukun, bəədulur-də ənsukun,
 さあ、 頭が 痛い時には、 足も 痛い時にも、

11-026

čəələji oraatač bəgdəəččəettə.
 全ての 薬で 治していたものだ。

11-027

uŋə, čaalbaandøk tar, ñəəčəwən uŋŋəettu,
 あれ、 白樺から ほれ、 葉を ああしていた、

11-028

bəədul ənsukun tar ələəttiŋur ɔmiččootta, ikəriwɔr.
 足が 痛ければ ほうら 煮てから 浸していた、 自分らの骨を。

11-029

taraw ñaan, məəwən-də, koolloottu, tar uŋə,
 それを さらに、 煮汁を 飲んでいた、 あの あれ、

11-030

oon-kana, ənsukun-ə, pochki, bosta ənsəkən, taraw, uŋŋəettu.
 何だっけ、 痛い時には、 腎臓、 腎臓が 痛い時には、 それを、 ああしていた。

11-031

ñaan mñnoottu-da, dootan doolun kogda
 やはり 突っ込んでいた、 毛皮製の長靴下の 中へ、 いつでも

11-032

bəədul-kə tar kəbdurəŋčirəkən tar, ñəəčəwən oraatton tar,
 足が その 腫れてしまった時に、 その、 葉を 草を その、

11-033

čaalbaan, ñaan əə~idu čəommoottan tarak kəbdurəŋčiri.
 白樺を、 ほうら すっかり 退いた、 それが 腫れていたのは。

11-034

okokow, tar-a, tarič uŋŋəettun məəwən tar
 イラクサを、 それは、 それで ああした（煎じた） 湯を、 その、

11-035

ələəttiŋur uŋəl-kə əjənukun tar awgitta iimkəmi-də uŋələč,
 煮てから、 血が 出た時に、 ほら どこからか 咳をしても 血を伴って、

11-036

taraw, iluwəətti ñaan aj oowaattan.
 それを、 飲んでいて、 それで 良く なっていた。

11-037

uŋə, eetakay-sɪ moowan-ka tar, uŋə, tiim nəkriŋur,
 あれ、 ヤナギの 枝を ほうれ あれ、 細かく刻んで、

11-038

taraw ələččəttə, iimkumi, butənmī-kkə tar geeki
それを 煮ていた、 咳が出ると、 病気になると、 ほら いろいろ何でも

11-039

ənšukun, tiək-kə geəwəəttə, temperatura. taraw ŋaan koollootta.
病気になると、 今なら 言うだろう、 熱があると。 それを やはり 飲んでいた。

11-040

ŋaan bəgdəəččəəttə tačm-da. uŋnə-də biwəəttən, uŋə,
さあ 薬にして治していたのは、 そんな風だ。 さらにあれも あった、 あれ、

11-041

chaaga. oon-ut gərbən orottač omɣaram.
カバノアナタケ⁽²⁾だ。 何という 名だったか、 エウエン語で 忘れてしまった。

11-042

taraw-si, uŋŋəəttən, duruččəəttə tozhe, uŋə uŋəlkə bisukun,
あれを、 ああしていた、 焼いていた、 やはり、 あれ、 血が 出ると、

11-043

oŋatli-da uŋəl bisukun, duruwəəttə, ŋaan-a uŋə, aanıman
鼻から 血が 出ると、 焼いていた、 ほうれ あれ、 その煙を

11-044

ıraawkawaatta. ŋaan aj oowaattan uŋəl, oddoottan.
吸わせていた。 ほうれ 良く なるのだった、 鼻血が おさまるのだった。

11-045

ur-də ənšukun taraw, uŋŋəəttə, chaagaw taraw,
お腹も 痛い時には それを、 ああしていた、 カバノアナタケを、 それを

11-046

ələəttiɣur, uɣuttiɣur koollootta. təwtə-si brusnik-a, taraw,
煮てから、 煮立ってから 飲んでいた。 ベリーなら コケモモ、 それを

11-047

iluəəttə dil ənšukun. oon-ka, dilv-ka kaduččəəttan.
飲んでいて、 頭が 痛い時に。 何だか、 頭が 重い、

11-048

geəwəəttə, davlenie vysokaja, ŋaan taraw ɟəbmi uŋə, aj
言わば、 血圧が 高い、 さあ それを 食べて あれだ、 良く

11-049

oowaattan. biwəəttən unət kalgaan.
なるのだった。 あるのだ、 さらに、 イワベンケイ⁽³⁾。

11-050

tarak-ısi kalgaan isuwəəttin urəkčəənduli.
それは、 イワベンケイは 生えている、 山に。

11-051

taraw iluwəəttə, ələəriɣur, čaailan uŋkəwəətti taraw,
それを 飲んでいる、 煎じてから、 お茶に 入っていた、 それを、

11-052

uŋə butənəddiɣur-kə aačča, əɟi biwəəttən,
あれ、 病気してから、 力が無いと なれば、

11-053

ñaan taraw, balleettan arč, əŋi oodaas.
 ほうら それを、効いた、良く、力を おまえが取り戻すのに。

11-054

bəil-də, uŋə, məərdur tar-a, əŋiwər bidəən bəiti.
 男の人たちも、力が、自分たちに その、精力が あるようにと 男たちは。

11-055

taraw kalgaam iluwəəttə.
 それを、イワベンケイを 飲んでいて (強壮剤として)。

- (1) マルタゴンリリー／クライトニア属？ ロシア語では lilija slabaja (sarana) もしくは rjabchik kamchatskij であるという。
 (2) カバノアナタケのエウエン語名は後で思い出したが、ulə であるという。
 (3) 学名：Rhodiola rosea。

謝辞

まず本稿のテキストや語彙・例文などの資料を語ってくださったコンサルタントの方々に深くお礼申し述べたい。特に書き起こしを手伝ってくださった R. M. Egorova 氏に深く感謝申し上げる。ペトロパヴロフスク滞在や現地との連絡、レジストレーション等でお世話になった V. Petrasheva 氏とその娘さん、筆者にカムチャッカでの調査の道を開いてくださった小野智香子さんにも深くお礼申し述べたい。丁寧に査読して下さい、貴重なコメントを下された査読の先生方にも記してお礼申し述べたい。

参考文献

- Aralova, N. B., K. Gernet, R. M. Egorova, E. V. Zhivotova, E. A. Krivoschapkina, I. V. Krivoschapkina, B. Pakendorf, S. Tjupke i M. Shrajber (2013) *Skazki evenov Kamchatki i Sebjan-kjuelja*. Instituta evoljutsionnoj antropologii im. Lejptsig: Maksa Planka.
- Bokova, E. N. (2002) *Evedy fol'klor. Uchebnoe posobie po natsional'noj kul'ture dlja uchashshikhsja 5-6 klassov*. Jakutsk: Bochik.
- Kazama, S (2003) *Basic vocabulary (A) of Tungusic languages*. ELPR publications, A2-037. Suita: Osaka Gakuin University.
- 風間伸次郎 (2003) 『エウエン語 テキストと文法概説』 ELPR publications, A2-030. Suita: Osaka Gakuin University.
- Kazama, S. (2009) *Ewen texts 2*. Fuchu: TUFs.
- 風間伸次郎 (2011) 「ツングース諸民族の口承文芸について」北海道立北方民族博物館 (編) 『北海道立北方民族博物館研究紀要』 20: 25-54.
- 風間伸次郎 (2015 近刊) 「アジアの北辺から (言語研究フィールドノート) : カムチャッ

- カからアムールへ』『日本研究教育年報』15. 府中：東京外国語大学
- 木部暢子 (2013) 『じゃっで方言なおもしろとか』東京：岩波書店
- 呉人恵 (2009) 『コリヤーク言語民族誌』札幌：北海道大学出版会.
- Novikova, K. A. (1960, 1980) *Ocherki dialektov evenskogo jazyka* (v 2 tomakh). Moskva-Leningrad: AN SSSR.
- Novikova, K. A. (1968) *Evenskij jazyk. Jazyki narodov SSSR* 5. Leningrad: AN SSSR.
- Novikova, K. A., N. I. Gladkova i V. A. Robbek (1991) *Evenskij jazyk. Uchebnik dlja pedagogicheskikh uchilishsh*. Leningrad: Prosveshshenie Leningradskoe otделение.
- Robbek, V. A. (1989) *Jazyk evenov berezovki*. Leningrad: Nauka.
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (1966, 1967) 『アジア・アフリカ言語調査票 上・下』府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

A Sketch and Texts on the Bystraja Dialect of Ewen in Kamchatka

Shinjiro KAZAMA

(Tokyo University of Foreign Studies)

This paper consists of three parts: § 1. a brief report on the fieldwork; § 2. some characteristics of the Bystraja dialect of Ewen; § 3. texts of the dialect.

I point out the following points of the Bystaraja dialect:

• Phonetic and phonological features:

2.1.1.1. The loss of the phoneme /x/: as in (L) *xuŋəl* || (B) *uŋəl* ‘blood’

((L): literary Ewen, (B): Bystraja)

2.1.1.2. [s] > [ʃ~ɕ]: as in (L) *asɪ* [asɪ] || (B) *asɪ* [aʃɪ] ‘woman’

2.1.1.4. Assimilation of /r/: as in (L) *olru* || (B) *ollu* ‘fish’; (L) *imunru* || (B) *imanna* ‘snow’;

(L) *dalru* || (B) *dallu* ‘sweet’

2.1.3.1. Tendency for open syllables: (L) *tak* || (B) *taka* ‘salt’

• Lexical features:

2.2. Some changes of meaning

• Grammatical features:

2.3.1. Comitative *-gAli*

2.3.2. Verbal noun *-ŋA*

2.3.3.1. Prohibitive constriction: *əʃi* V-*kil* [sg.], *əʃi-llə* V-*killa* [pl.]

2.3.3.2. Demonstrative pronoun of the 3rd person plural (*noŋartar*) and possessive suffix

of the 3rd person plural (*-tAr*)

The texts consist of the following contents:

3.1. ~ 3.5. Folkloristic stories

3.6. ~ 3.11. Ethnological topics

(かざま・しんじろう kazamas@tufts.ac.jp)